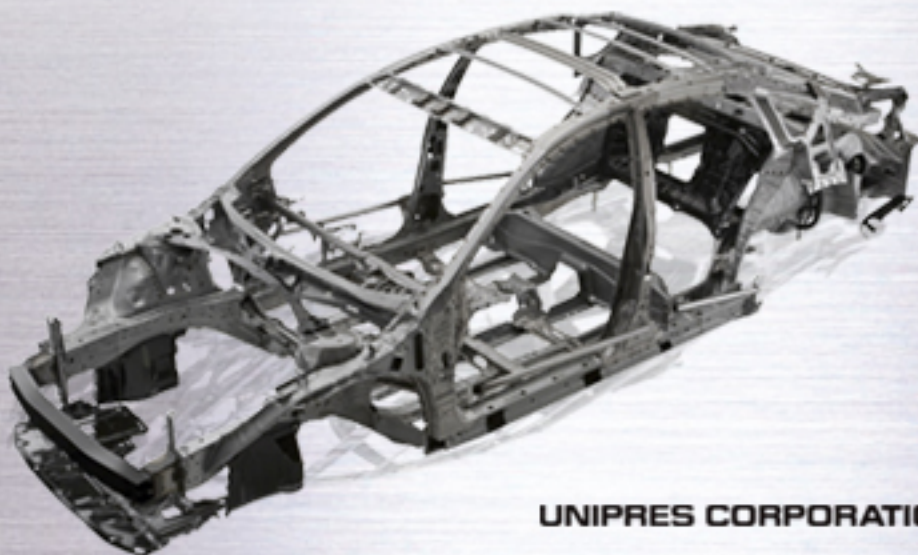




ユニプレス株式会社 2018年度決算報告

2019年5月17日 代表取締役 社長執行役員 吉澤 正信



UNIPRES CORPORATION



2018年度決算について

2019年度見通しについて

将来に向けた基盤作り



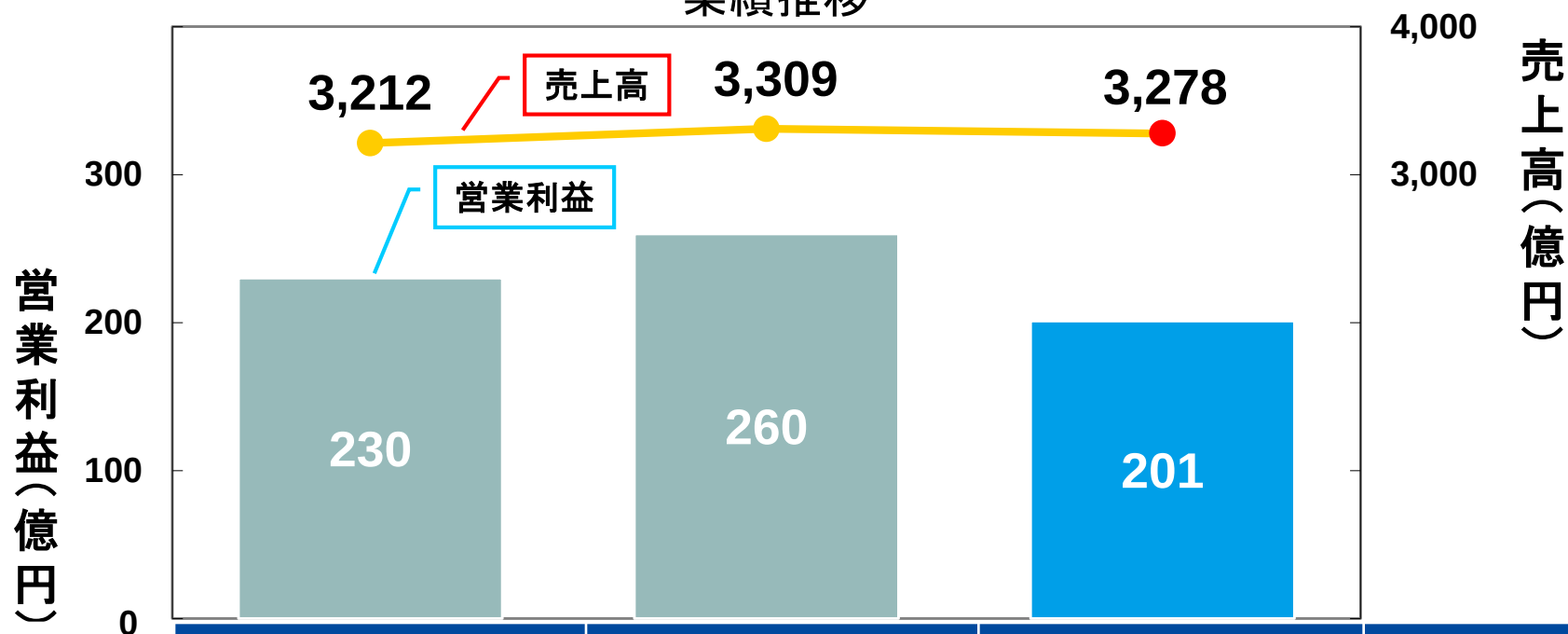
2018年度決算について

1. 売上高は、得意先の減産影響及び為替換算影響等により減収

2. 営業利益は、得意先の減産影響等により減益

2018年度連結決算サマリー

業績推移



	16年度	17年度(A)	18年度(B)	(B)-(A)
売上高	3,212	3,309	3,278	-31
営業利益	230	260	201	-59
経常利益	230	264	210	-54
親会社株主に帰属する当期純利益	144	159	129	-30

※ 売上高は、得意先の減産影響及び為替換算影響等により、31億円減収

※ 営業利益は、得意先の減産影響等により、59億円減益

製品群別連結売上構成

(億円)

	2017年度		2018年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	2,780	84.0%	2,758	84.1%	-22	+0.1%
トランスミッション製品	466	14.1%	451	13.8%	-15	-0.3%
樹脂製品	41	1.2%	43	1.3%	+2	+0.1%
その他	22	0.7%	26	0.8%	+4	+0.1%
合計	3,309	100%	3,278	100%	-31	—

※ 構成比に大きな変化は無し

得意先別連結売上構成

(億円)

	2017年度		2018年度		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	2,772	83.8%	2,768	84.4%	+0.6%
東風汽車	549	16.6%	616	18.8%	+2.2%
日産自動車	496	15.0%	436	13.3%	-1.7%
北米日産	420	12.7%	404	12.3%	-0.4%
ジヤトコ（海外拠点含む）	393	11.9%	379	11.6%	-0.3%
メキシコ日産自動車	361	10.9%	337	10.3%	-0.6%
欧州日産自動車	249	7.5%	256	7.8%	+0.3%
日産車体	133	4.0%	144	4.4%	+0.4%
カルソニックカンセイ（海外拠点含む）	107	3.2%	100	3.1%	-0.1%
ルノー日産インドア	29	0.9%	34	1.0%	+0.1%
タイ日産自動車	26	0.8%	27	0.8%	0.0%
鄭州日産	7	0.2%	12	0.4%	+0.2%
インドネシア日産	2	0.1%	5	0.2%	+0.1%

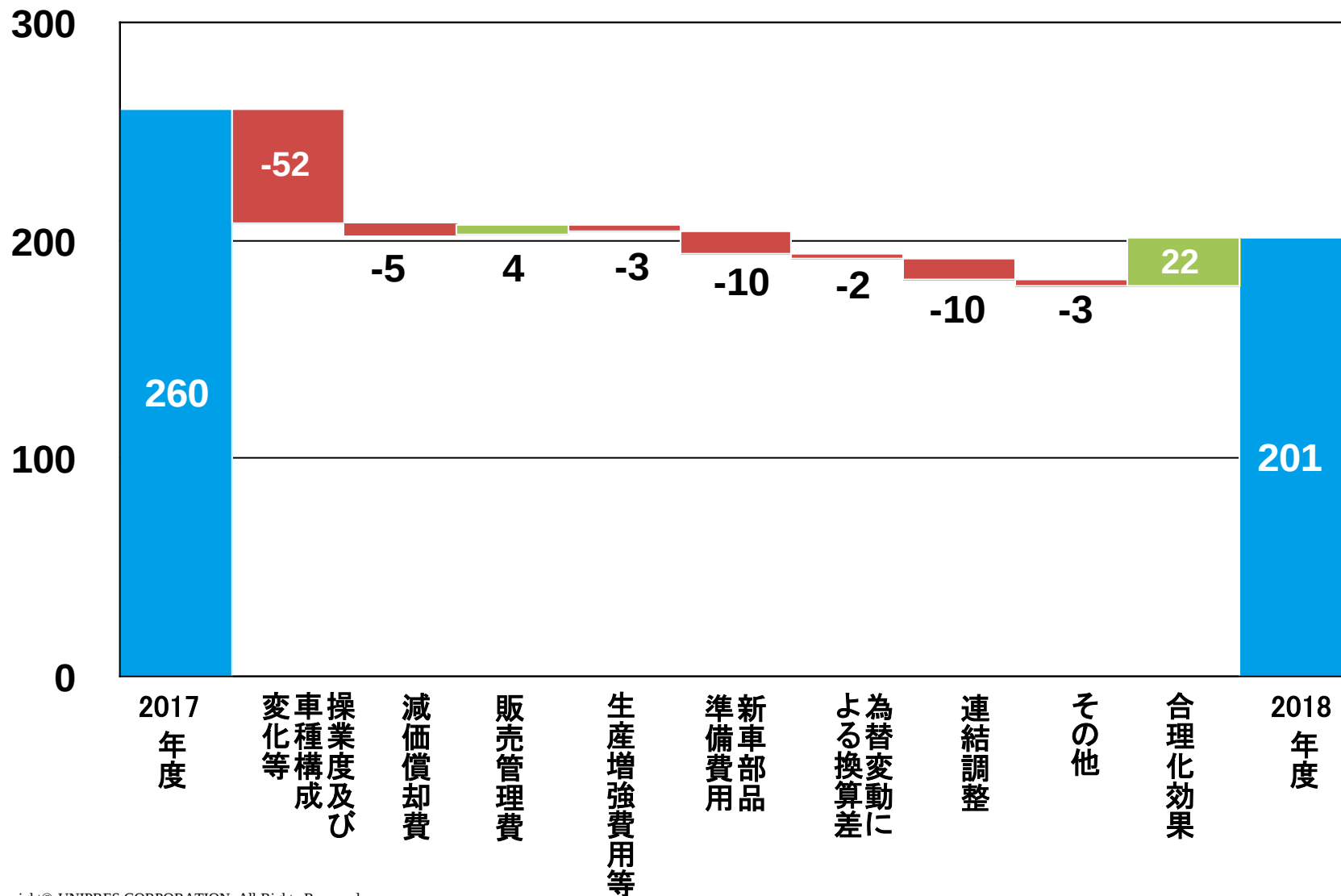
※ 中国の増産にともない、東風汽車の構成比が2.2%増加

得意先別連結売上構成

		2017年度		2018年度		構成比 増減 (億円)
		売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先 小計		537	16.2%	510	15.6%	-0.6%
内)ホンダ	米国ホンダ	65.5	2.0%	63.4	1.9%	-0.1%
	英国ホンダ	47.8	1.4%	53.8	1.6%	+0.2%
	本田技研工業	37.2	1.1%	29.9	0.9%	-0.2%
	メキシコホンダ	36.4	1.1%	23.5	0.7%	-0.4%
	インドネシアホンダ	24.8	0.7%	17.5	0.5%	-0.2%
ルノー	ルノー	56.0	1.7%	46.2	1.4%	-0.3%
	東風ルノー	38.6	1.2%	26.0	0.8%	-0.4%
マツダ	マツダ	24.9	0.8%	25.6	0.8%	0.0%
	メキシコマツダ	12.2	0.4%	12.0	0.4%	0.0%
アイシン・エイ・ダブリュ(海外拠点含む)		17.4	0.5%	27.3	0.8%	+0.3%
ダイナックス(海外拠点含む)		29.1	0.9%	25.7	0.8%	-0.1%
SUBARU		12.8	0.4%	15.4	0.5%	+0.1%
NSKワーナー		4.0	0.1%	4.6	0.1%	0.0%
三菱自動車工業		2.2	0.1%	4.5	0.1%	0.0%
トヨタ車体(海外拠点含む)		4.6	0.1%	4.0	0.1%	0.0%
ダイハツ		3.2	0.1%	3.1	0.1%	0.0%
日野自動車(海外拠点含む)		1.8	0.1%	2.9	0.1%	0.0%
スズキ(海外拠点含む)		0.9	0.0%	2.9	0.1%	+0.1%
UDトラックス		3.7	0.1%	2.4	0.1%	0.0%
いすゞ自動車(海外拠点含む)		1.5	0.0%	1.7	0.1%	+0.1%
豊田鉄工		1.7	0.1%	0.8	0.0%	-0.1%

営業利益の増減要因

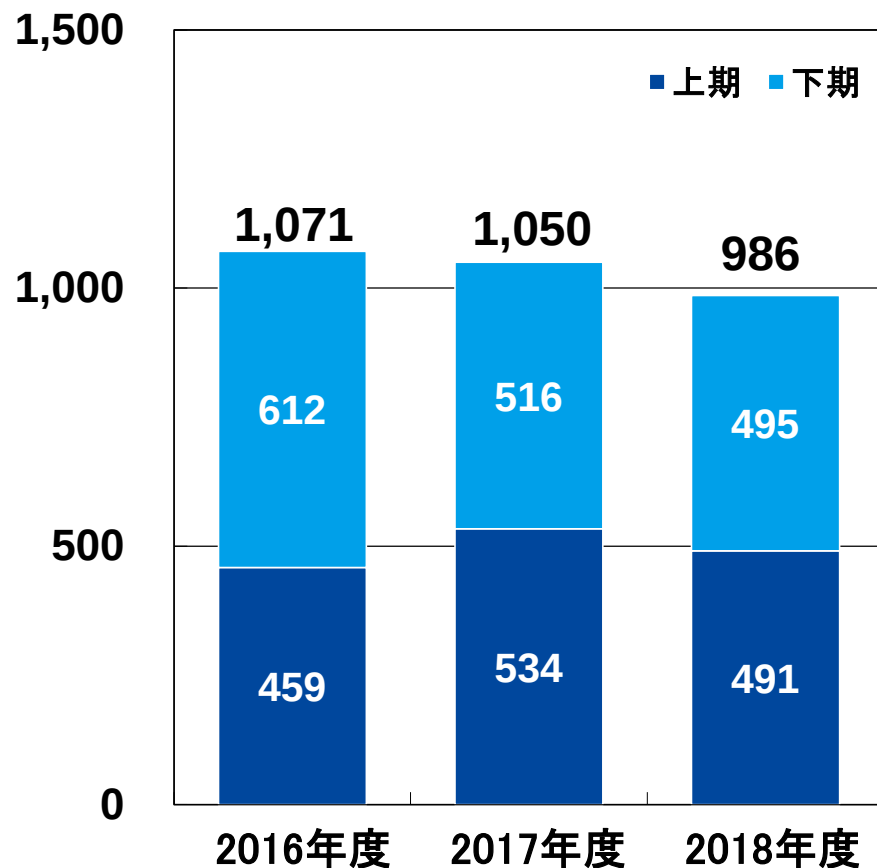
(億円)



地域別売上高・営業利益(日本)

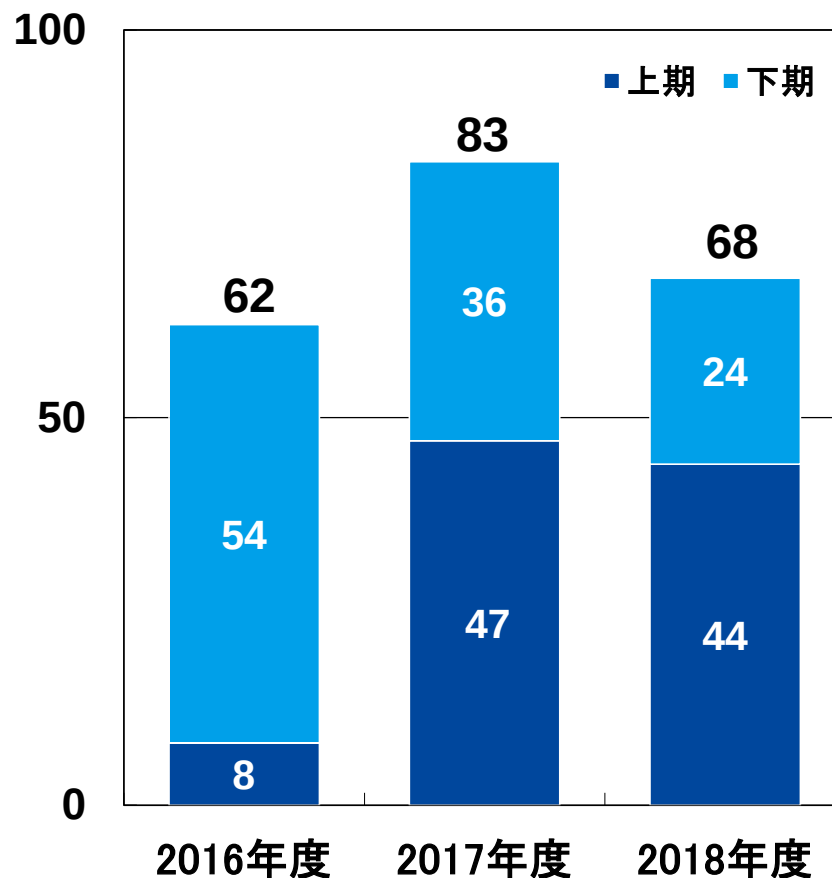
(億円)

売上高



(億円)

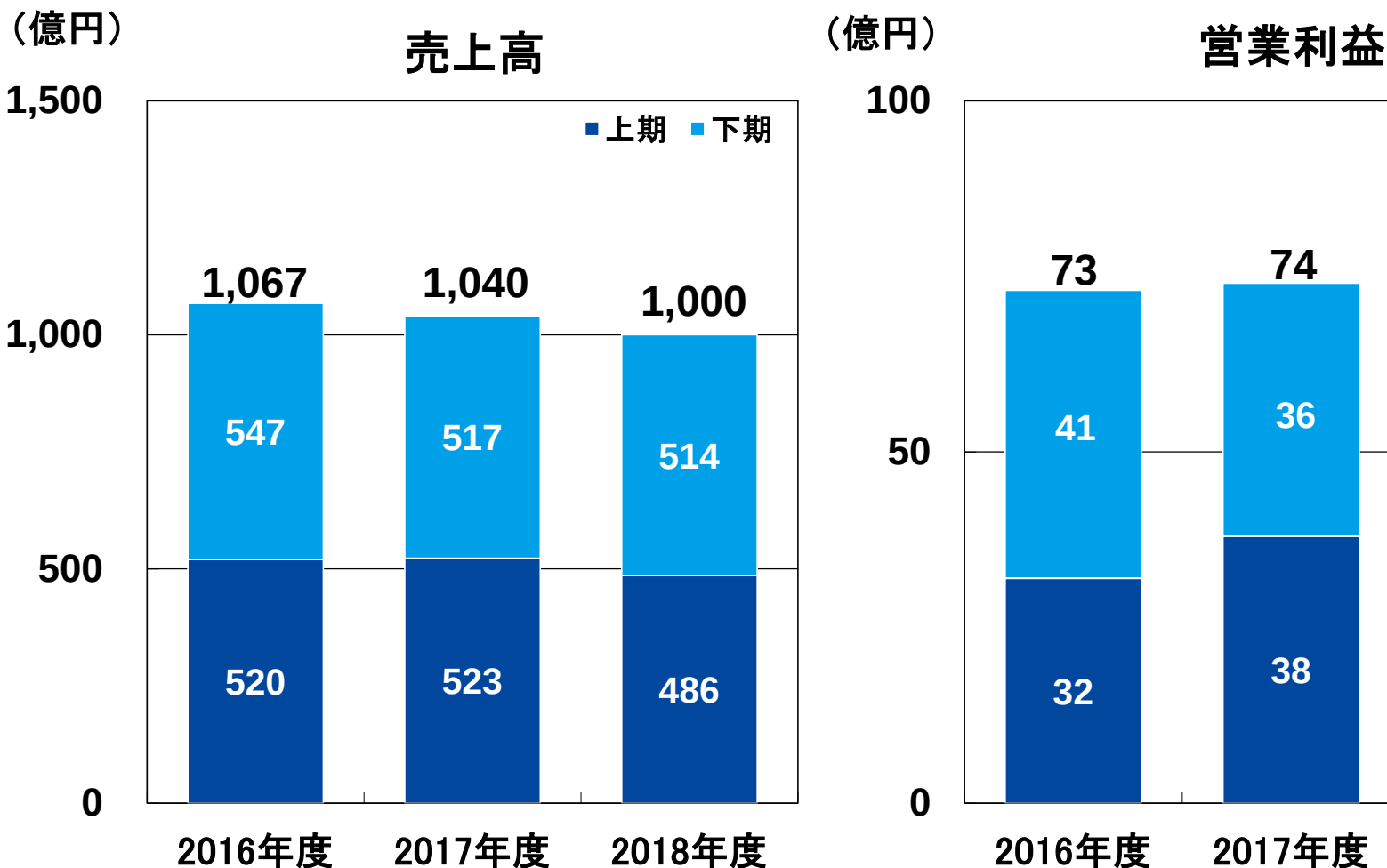
営業利益



※ 売上高は、得意先の減産影響等により、6.1%減収

※ 営業利益は、売上減の影響により、18.1%減益

地域別売上高・営業利益(米州)



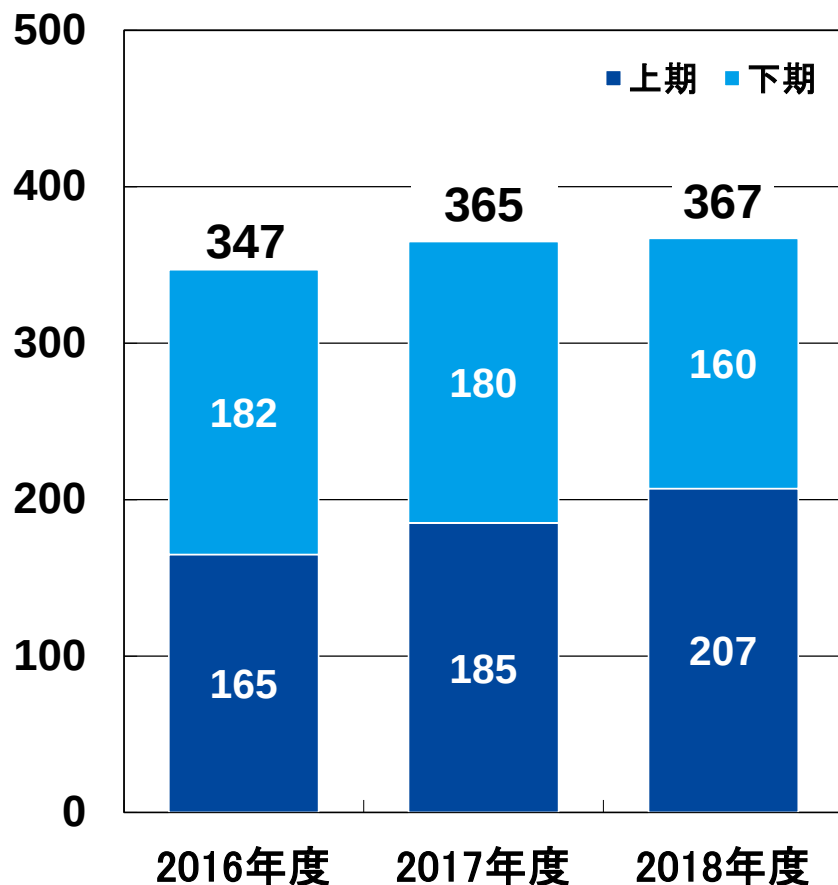
※ 売上高は、得意先の減産影響及び為替換算影響等により、3.8%減収

※ 営業利益は、売上減の影響により、43.2%減益

地域別売上高・営業利益(欧州)

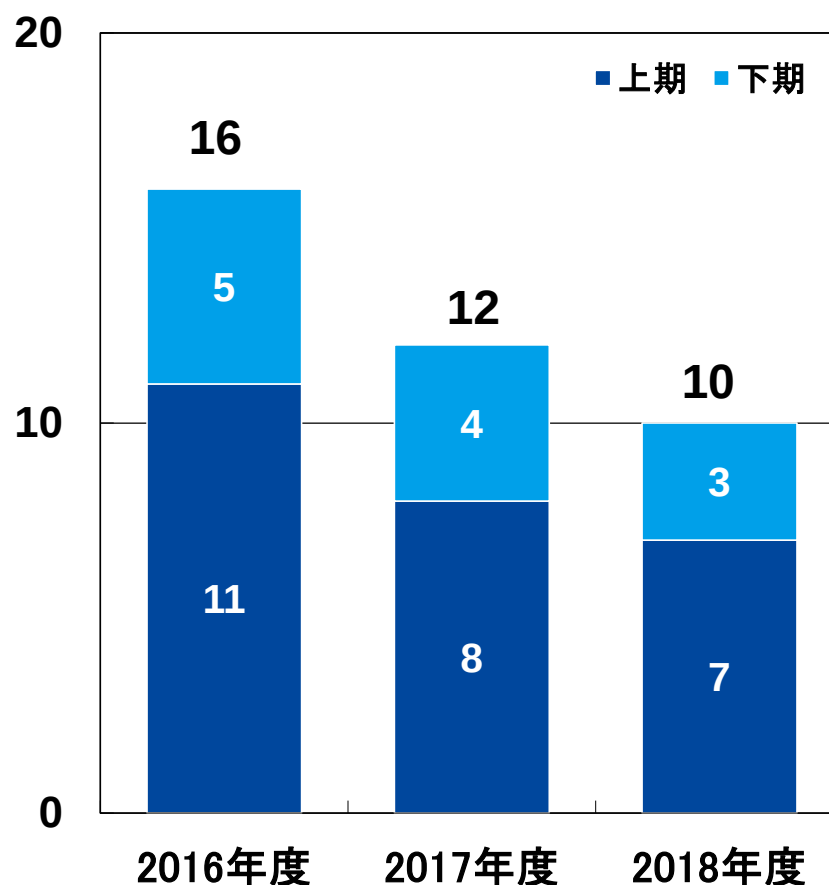
(億円)

売上高



(億円)

営業利益



※ 売上高は、為替換算影響等により、2億円の増収

※ 営業利益は、2億円の減益

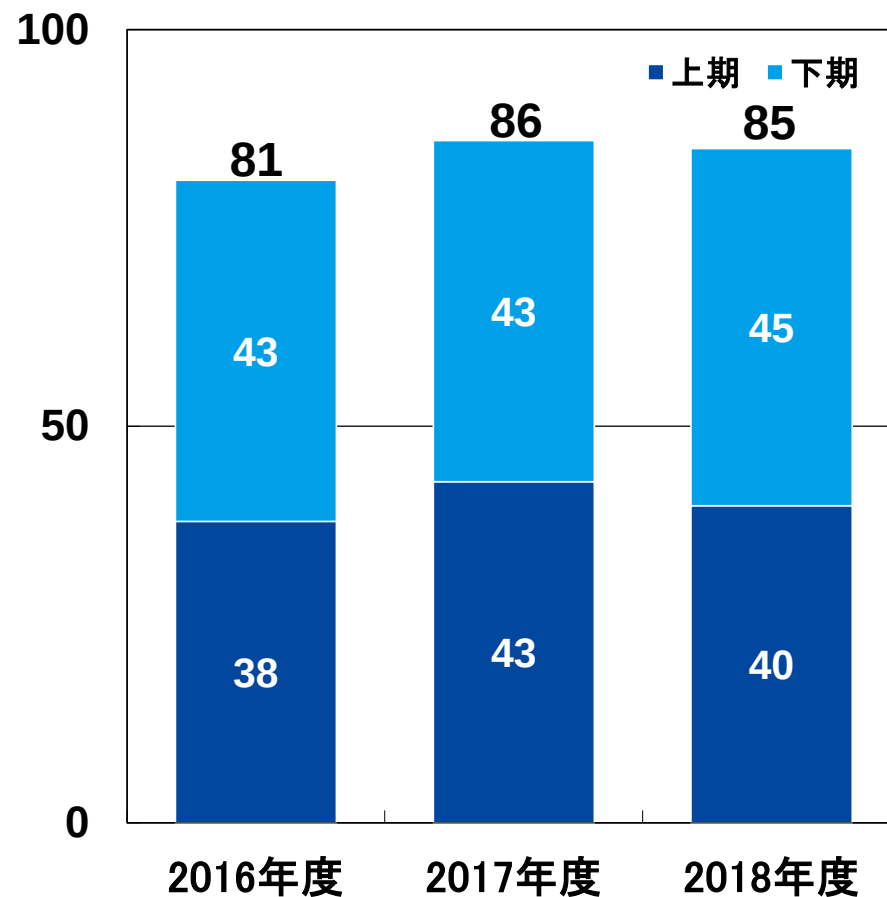
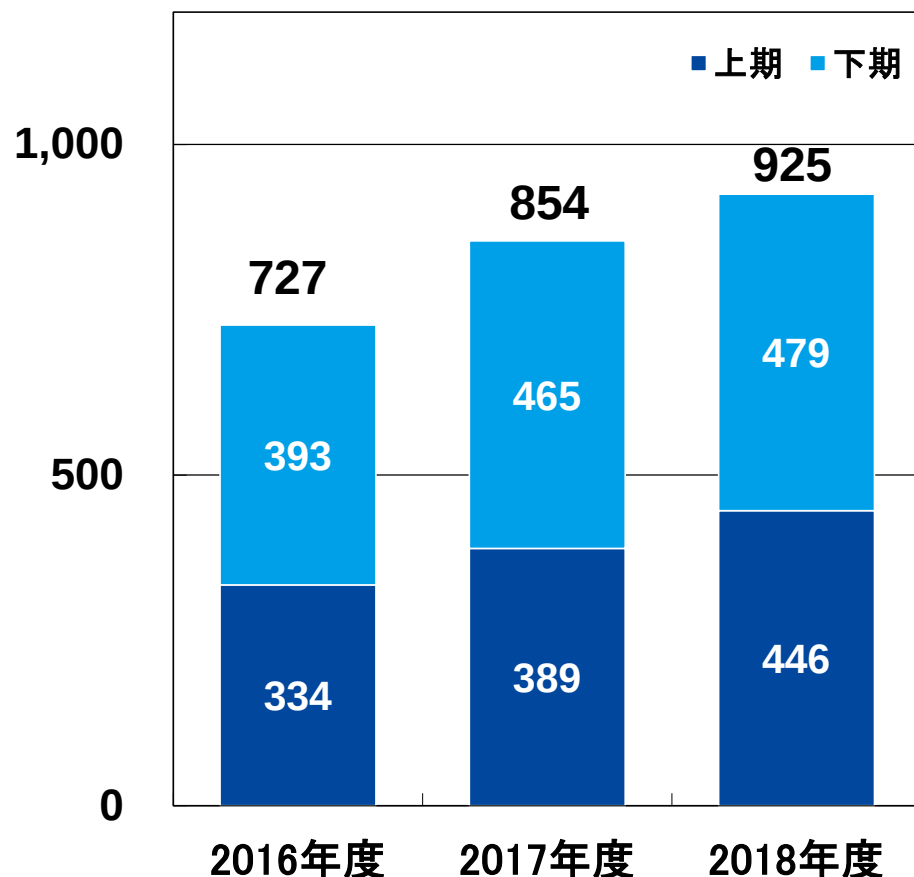
地域別売上高・営業利益(アジア)

(億円)

売上高

(億円)

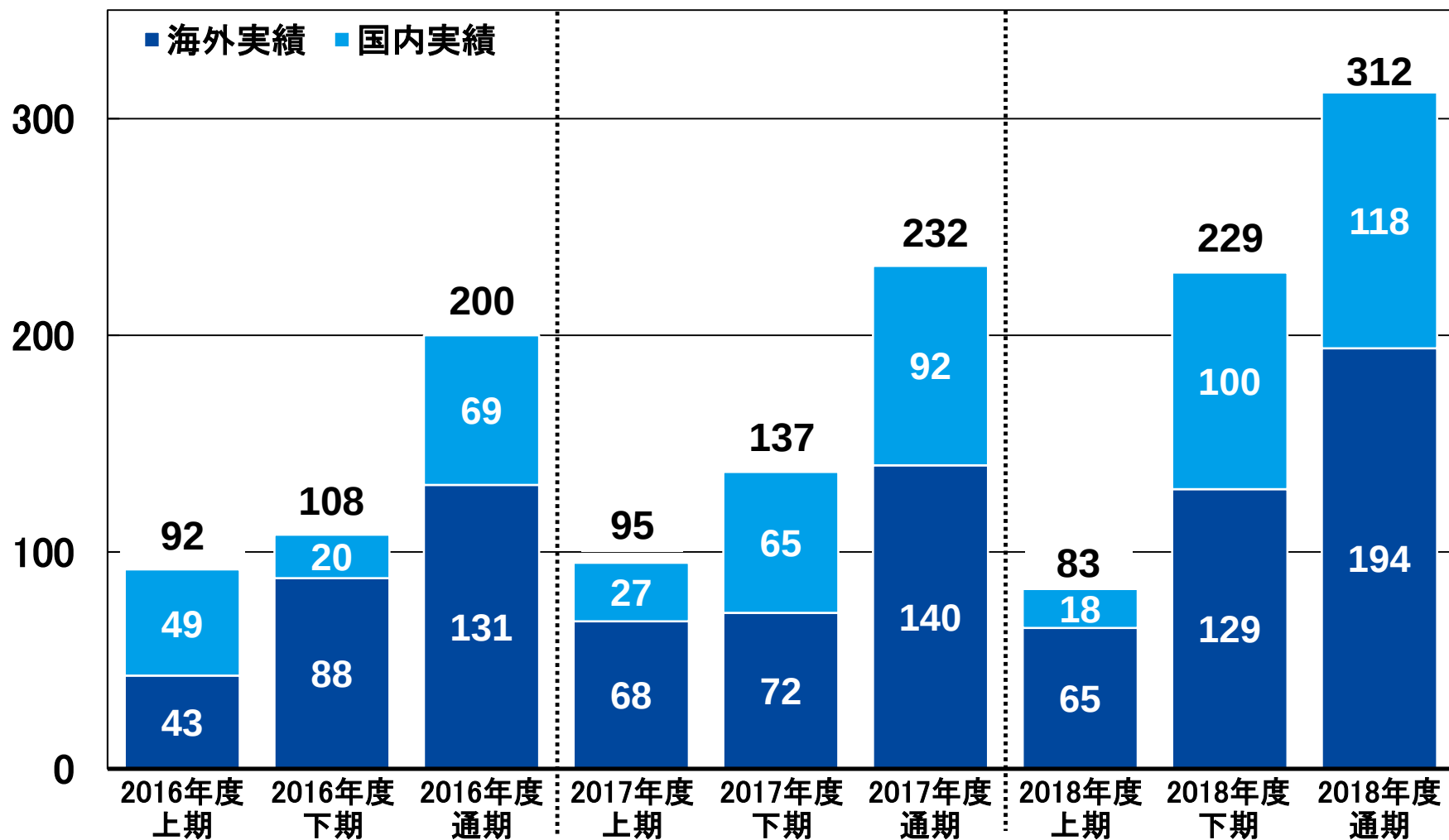
営業利益



※ 売上高は、得意先の増産影響等により、8.3%増収

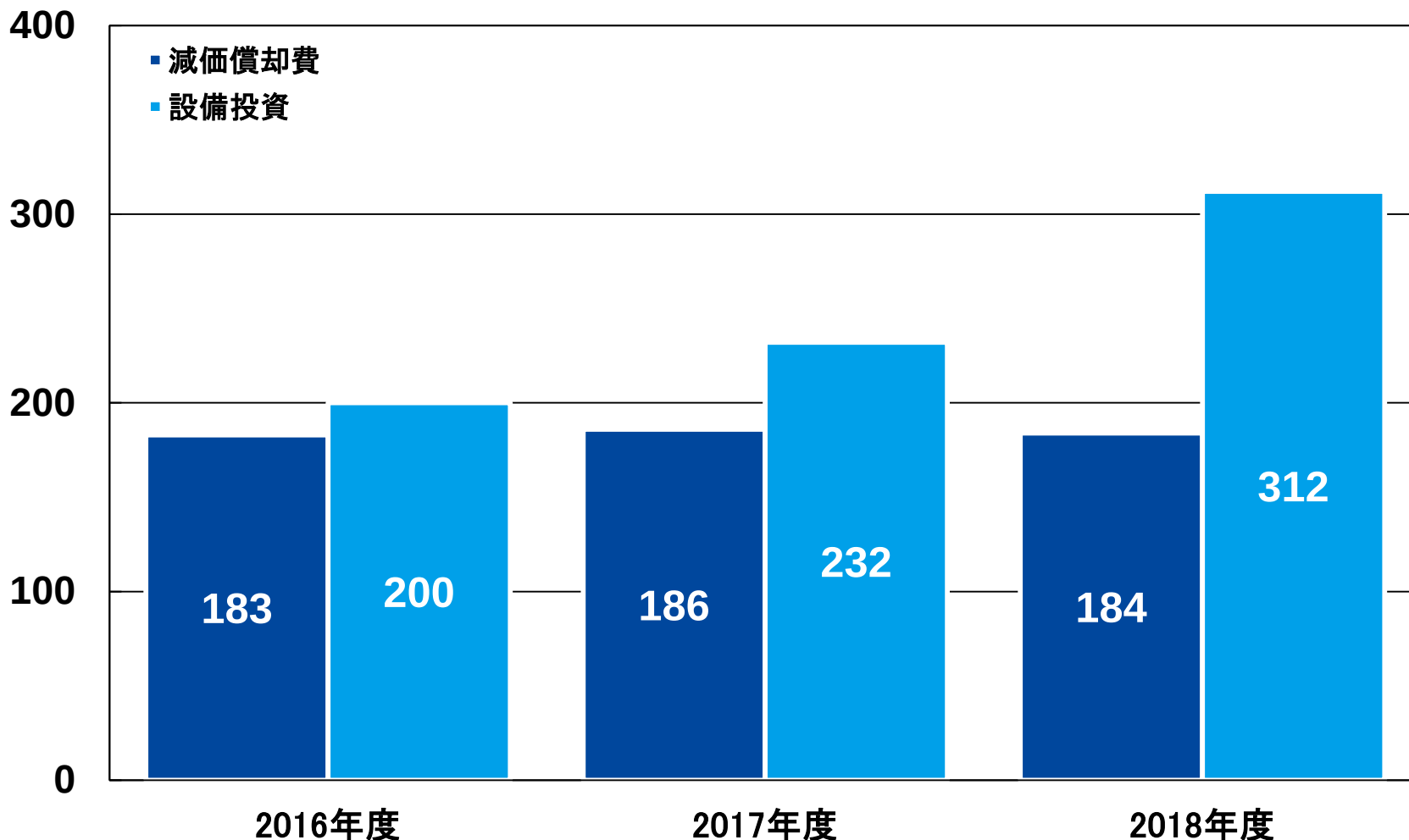
※ 営業利益は、増産に対応する費用の発生等もあり、1億円の減益

(億円)



設備投資・減価償却費推移

(億円)



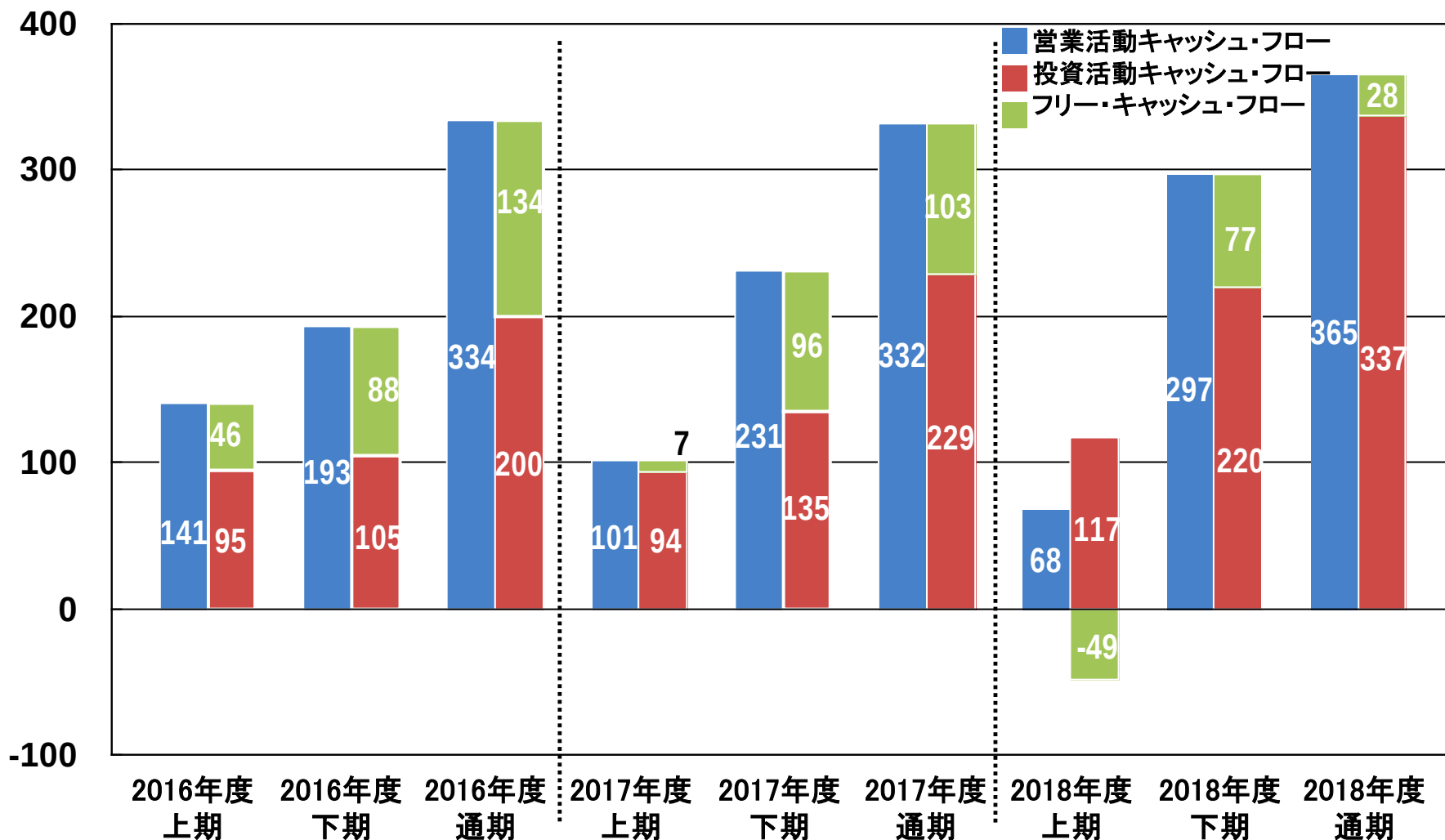
※ 設備投資は、前年度に対して80億円増加

※ 減価償却費は、前年度並み



キャッシュ・フロー

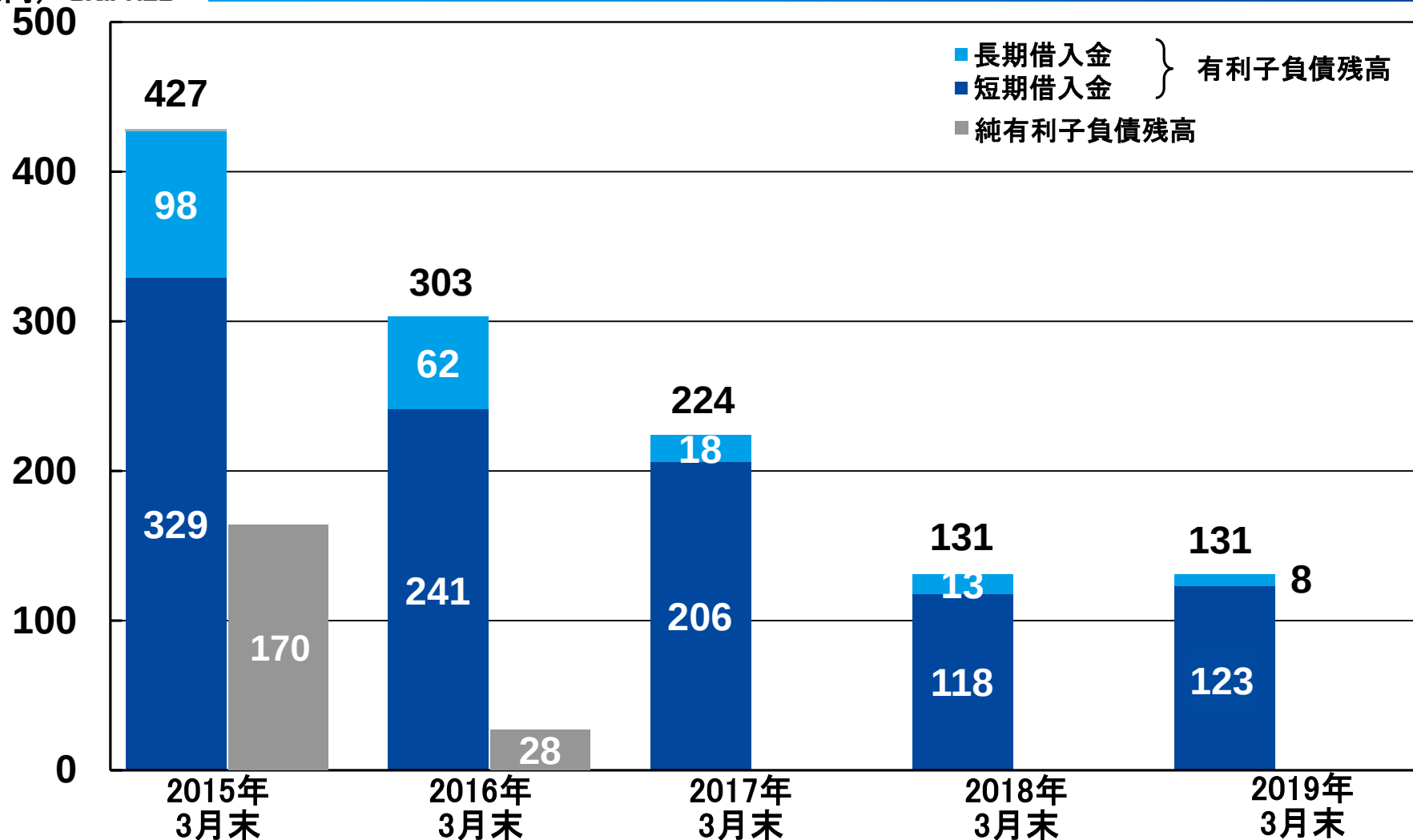
(億円)



※ 28億円のフリー・キャッシュ・フローを確保

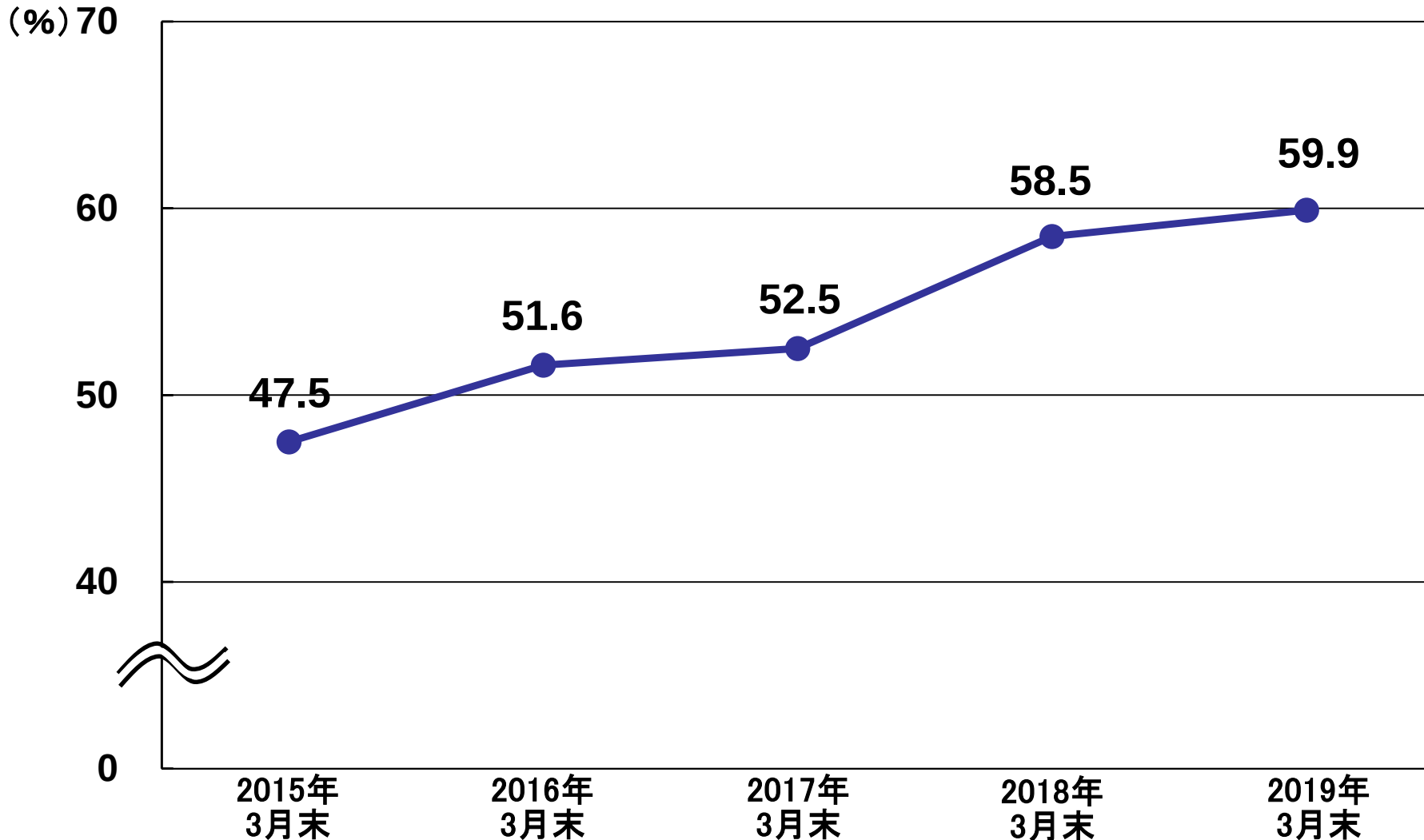
有利子負債・純有利子負債残高の推移

(億円)



※ 有利子負債は、前年度末と同水準

自己資本比率の推移



※ 継続的な安定的利益の確保により、前年度末に対し、+1.4%の59.9%

(円)

60.00

50.00

40.00

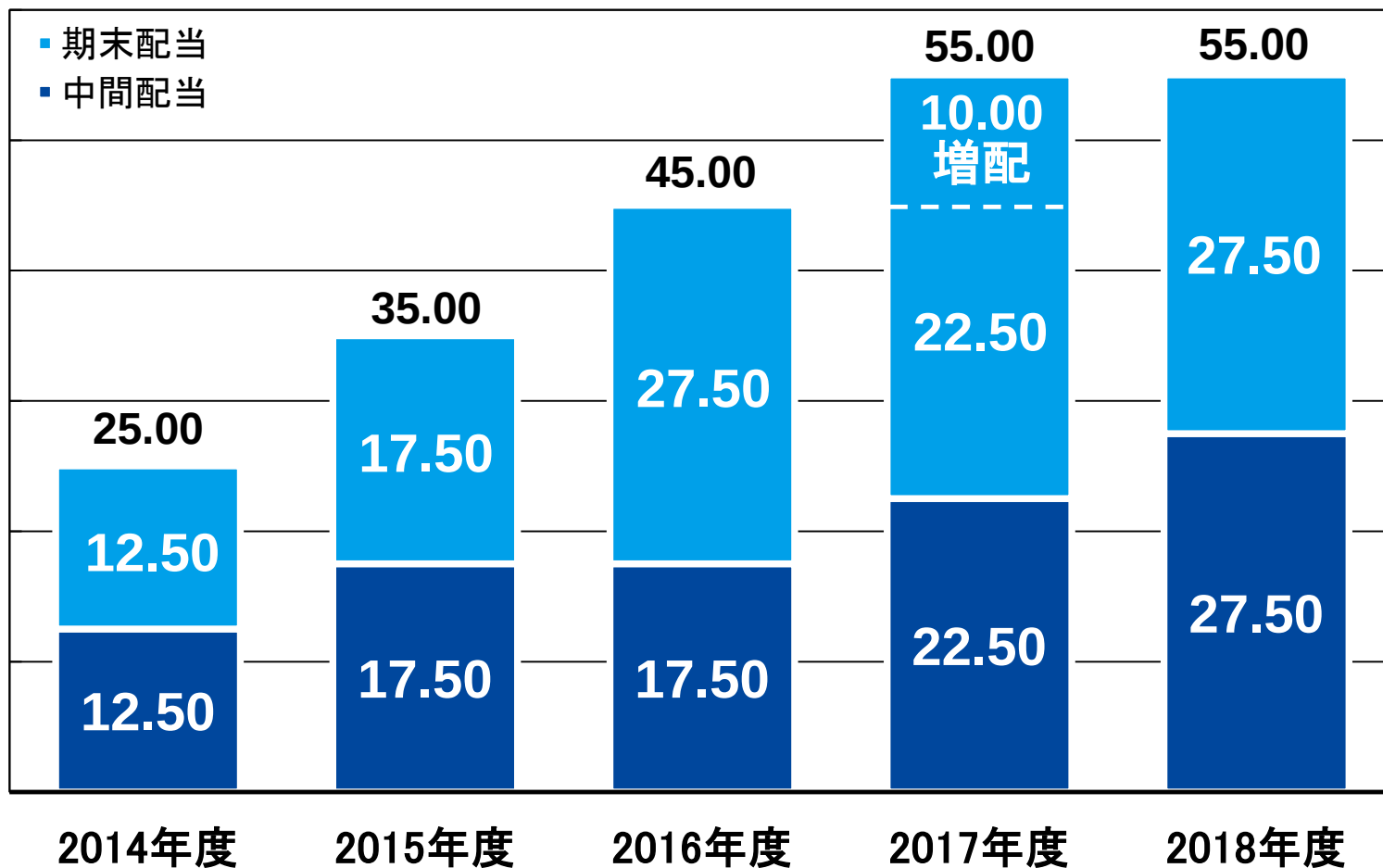
30.00

20.00

10.00

0.00

- 期末配当
- 中間配当



※ 2018年度は55円を継続

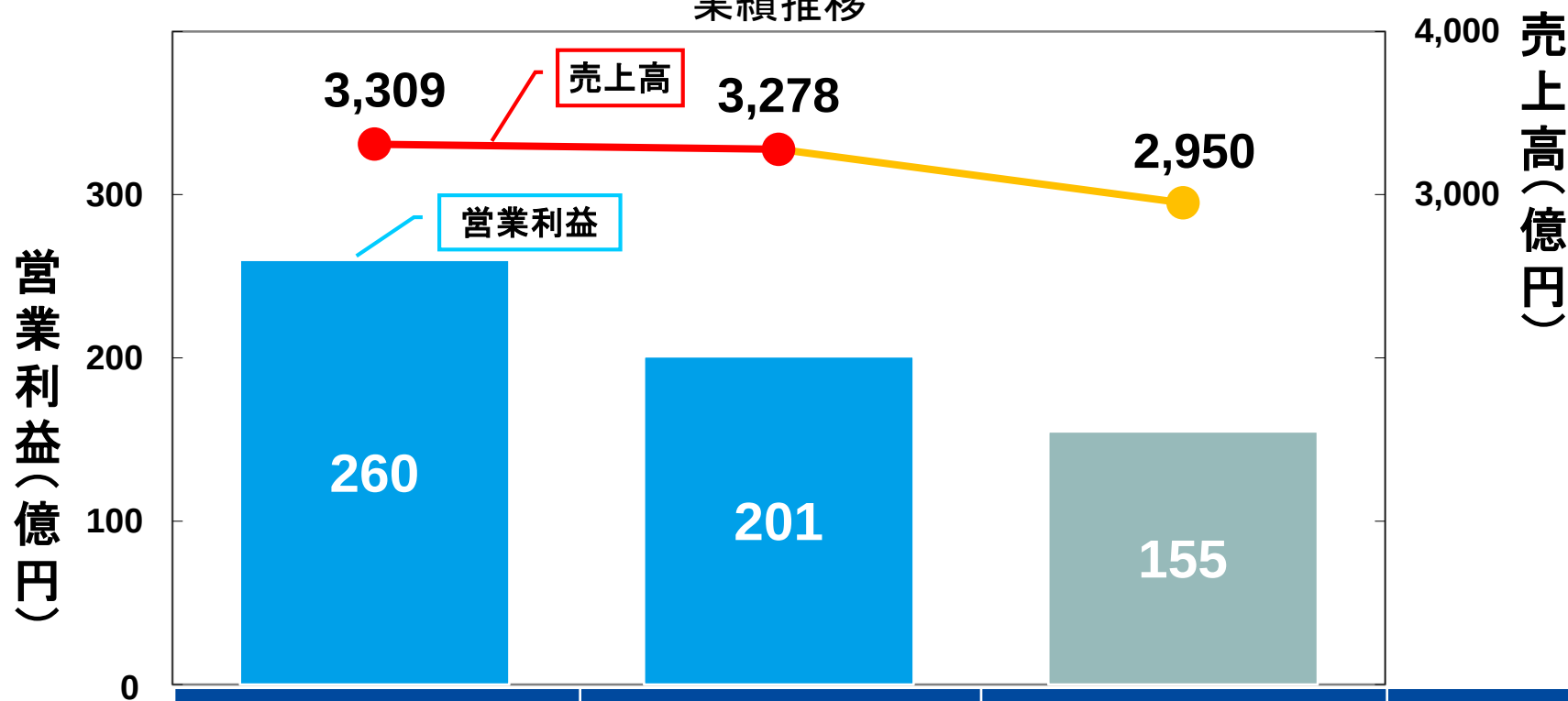


2019年度見通しについて

1. 売上高は、得意先の減産影響及び為替換算影響等により減収
2. 営業利益は、売上減の影響により減益
3. 生産基盤強化の為、高水準の設備投資を計画

2019年度連結業績計画サマリー

業績推移



	17年度	18年度(A)	19年度(B)	(B)-(A)
売上高	3,309	3,278	2,950	-328
営業利益	260	201	155	-46
経常利益	264	210	160	-50
親会社株主に帰属 する当期純利益	159	129	100	-29

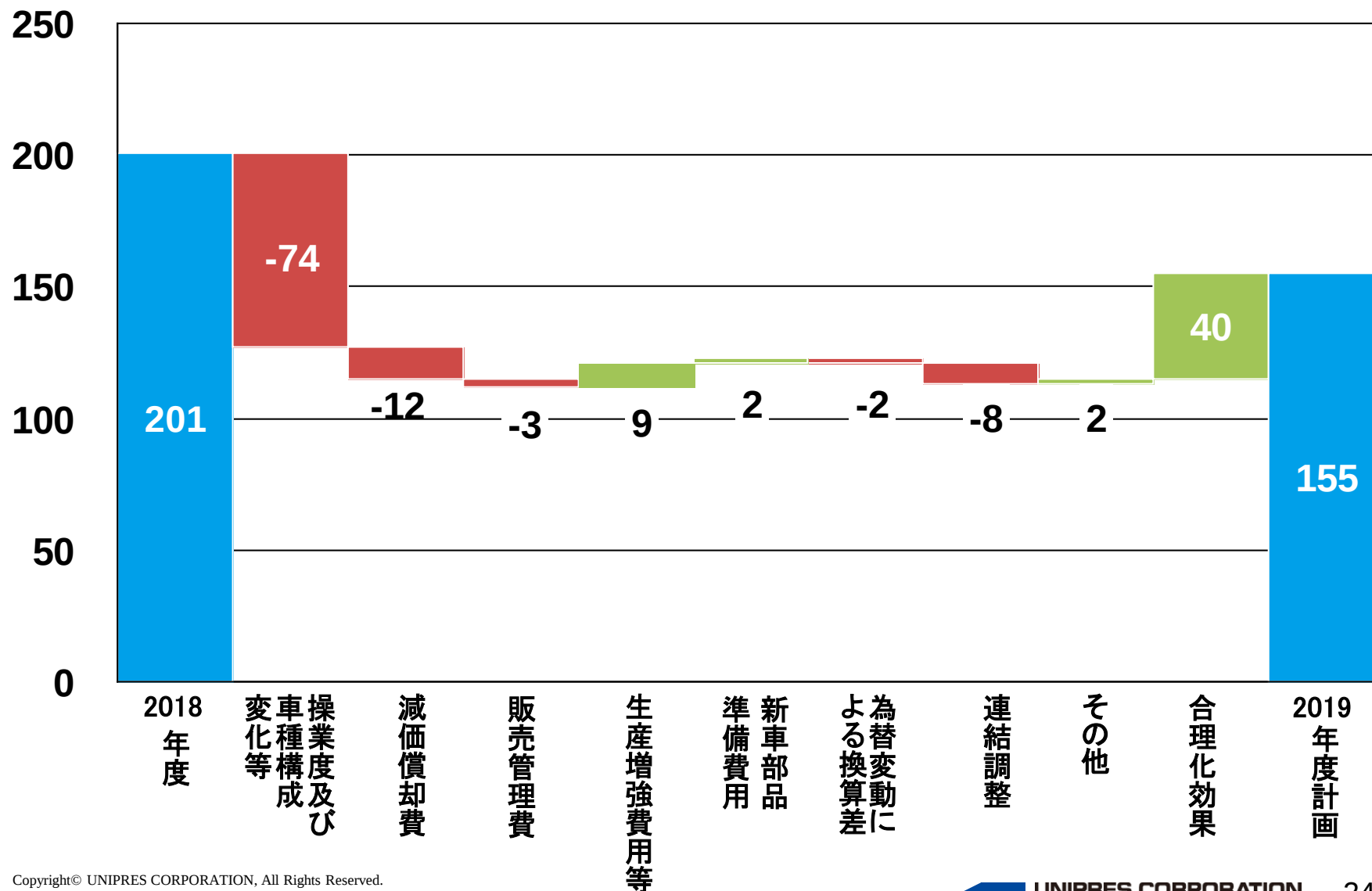
製品群別連結売上構成

(億円)

	2018年度		2019年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	2,758	84.1%	2,462	83.5%	-296	-0.6%
トランスミッション製品	451	13.8%	425	14.4%	-26	+0.6%
樹脂製品	43	1.3%	42	1.4%	-1	+0.1%
その他	26	0.8%	21	0.7%	-5	-0.1%
合計	3,278	100%	2,950	100%	-328	—

営業利益の増減見通し

(億円)



地域別売上高・営業利益(日本)

(億円)

売上高

(億円)

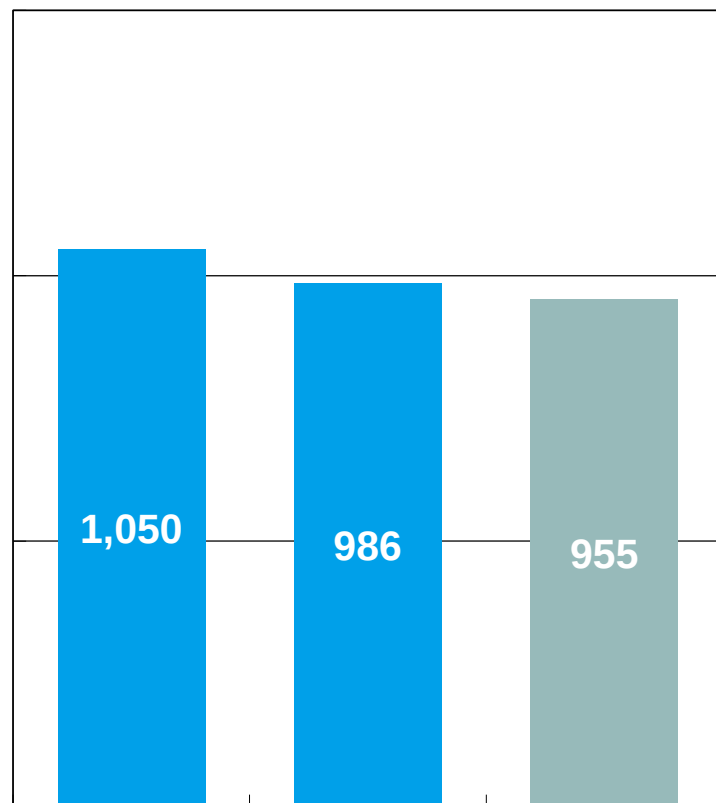
営業利益

1,500

1,000

500

0



2017年度

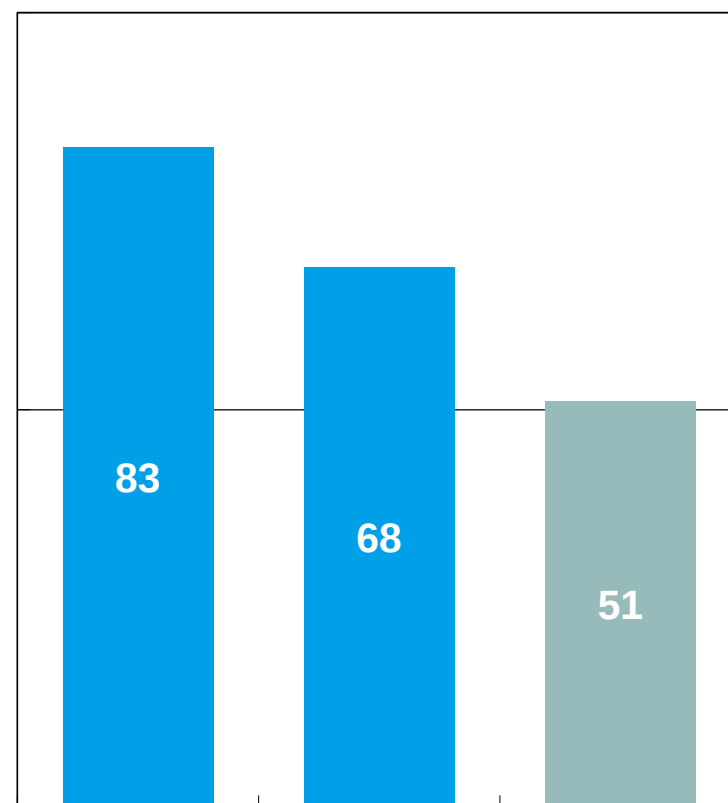
2018年度

2019年度
計画

100

50

0



2017年度

2018年度

2019年度
計画

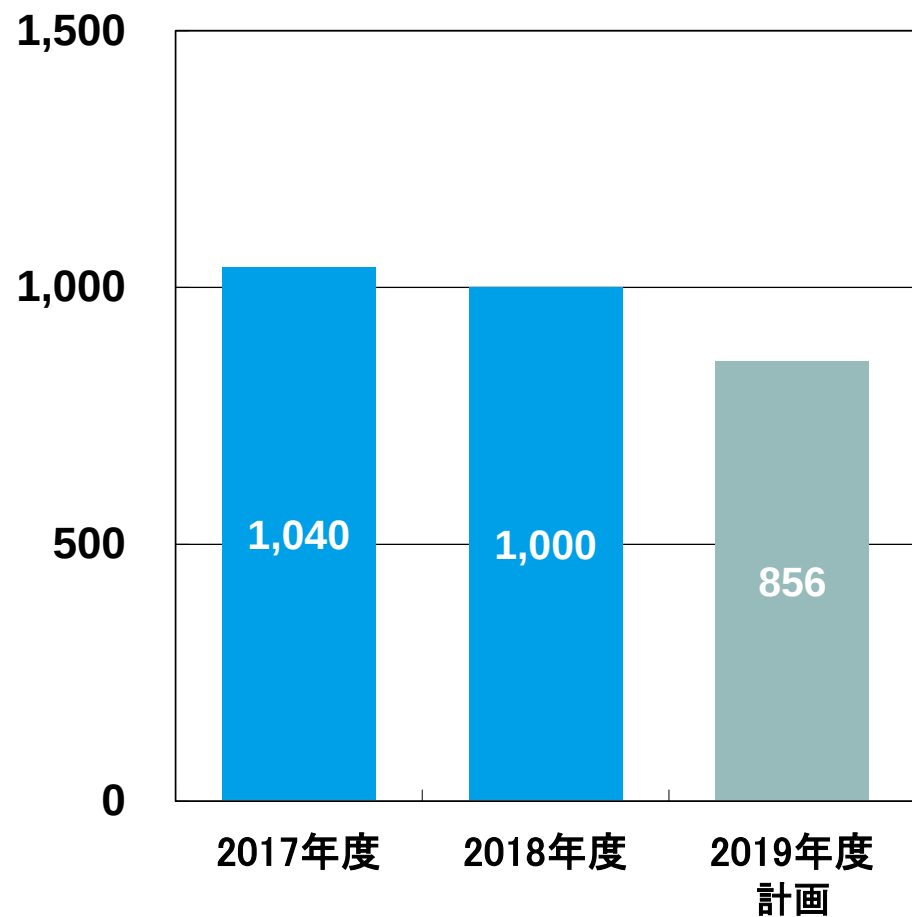
※ 売上高は、減産影響等により減収を計画

※ 営業利益は、減益を計画

地域別売上高・営業利益(米州)

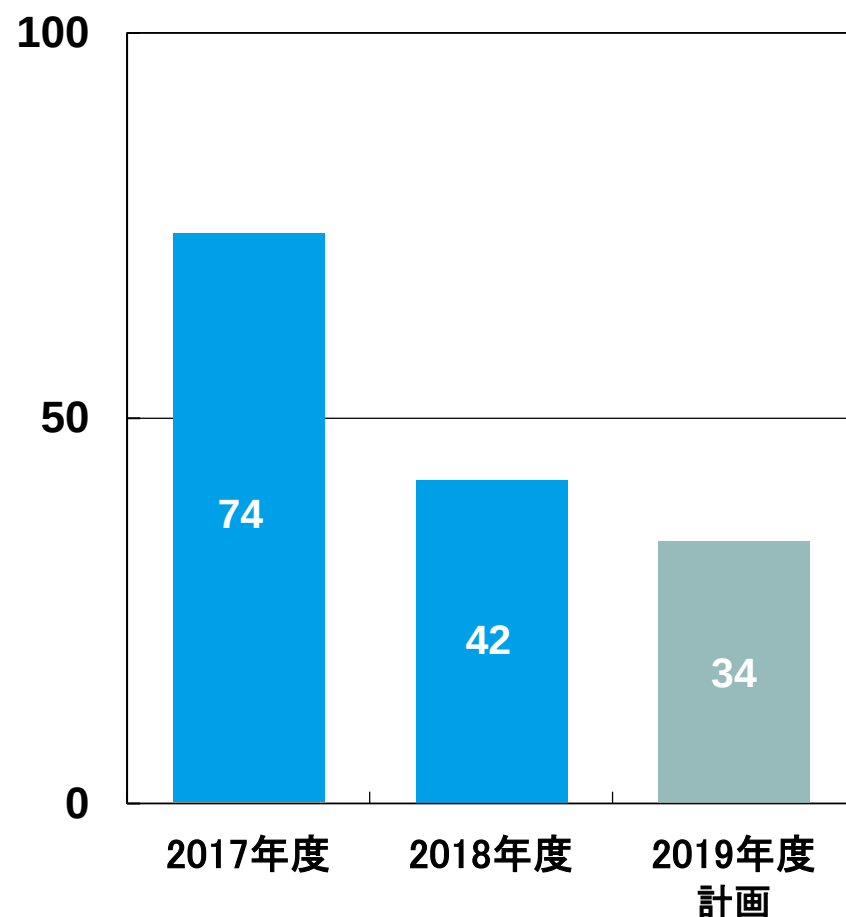
(億円)

売上高



(億円)

営業利益



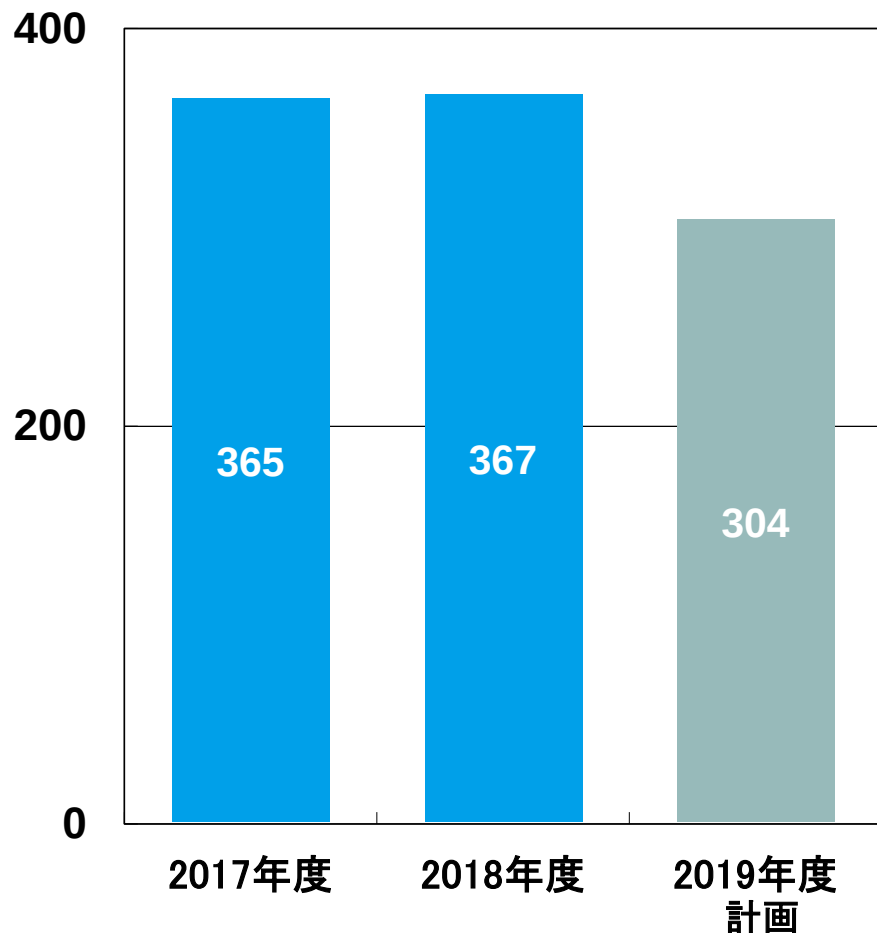
※ 売上高は、減産影響及び為替換算影響等により、減収を計画

※ 営業利益は、減益を計画

地域別売上高・営業利益(欧州)

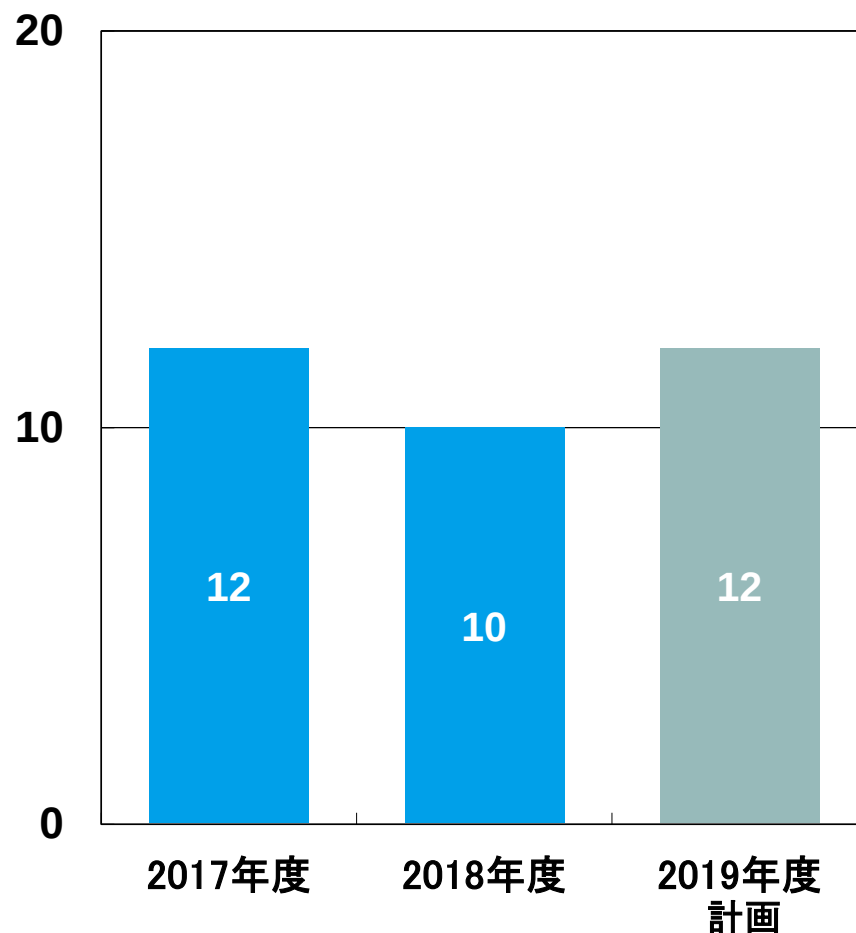
(億円)

売上高



(億円)

営業利益



※ 売上高は、減産影響及び為替換算影響等により、減収を計画

※ 営業利益は、増益を計画

地域別売上高・営業利益(アジア)

(億円)

売上高

(億円)

営業利益

1,000

100

500

50

0

0

2017年度

2018年度

2019年度
計画

2017年度

2018年度

2019年度
計画

854

925

835

86

85

70

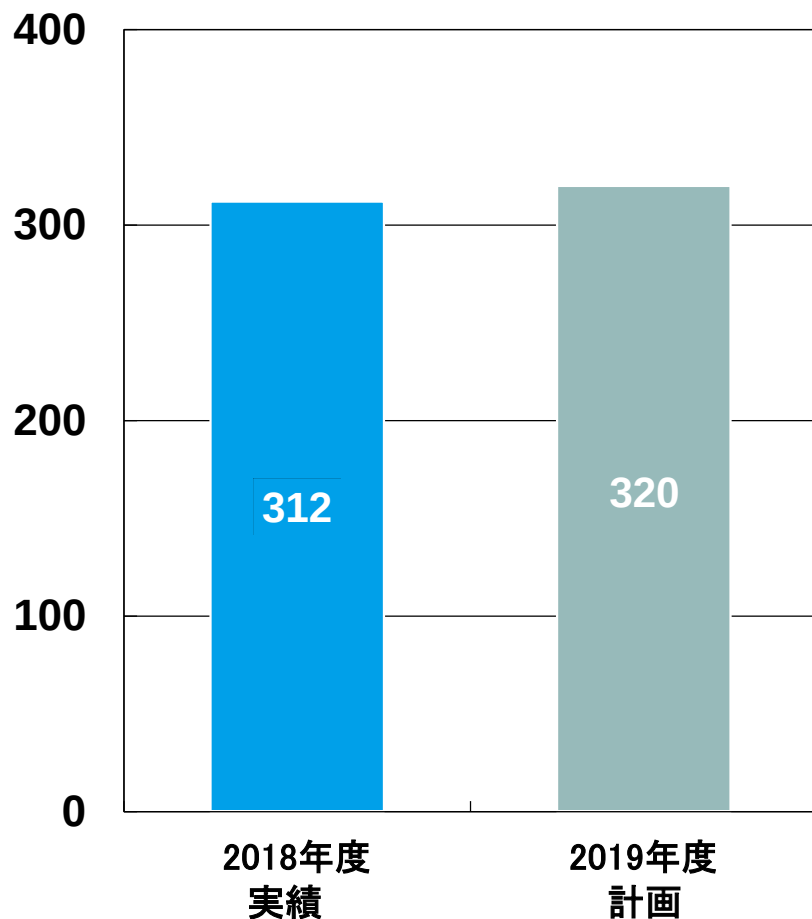
※ 売上高は、為替換算影響等により、減収を計画

※ 営業利益は、減益を計画

設備投資・減価償却費計画

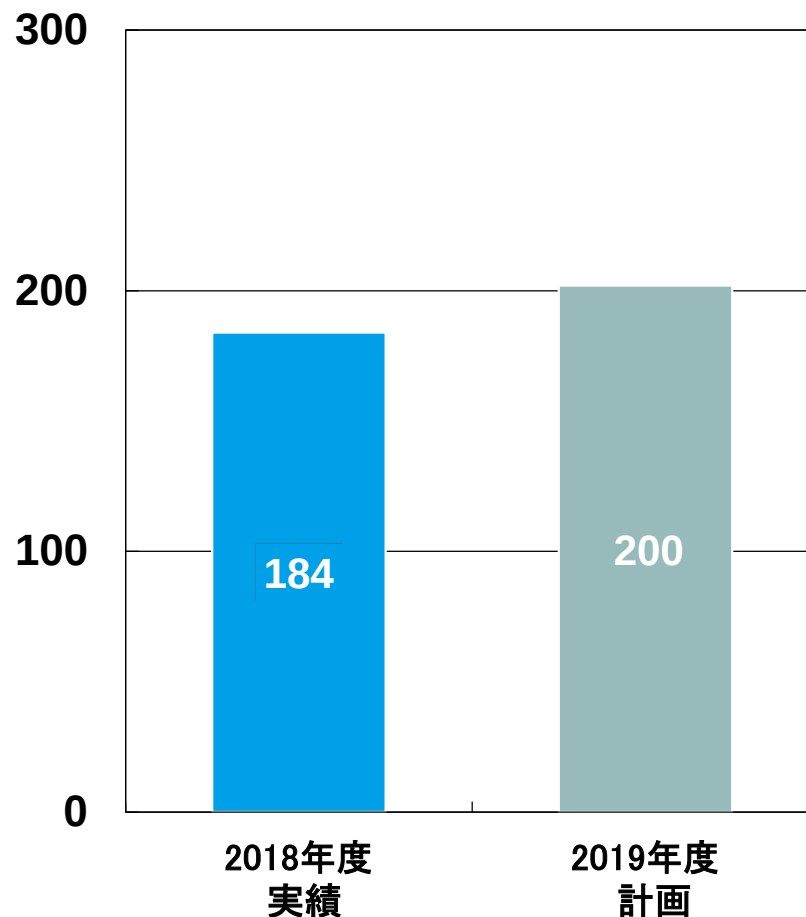
(億円)

【設備投資】



(億円)

【減価償却費】

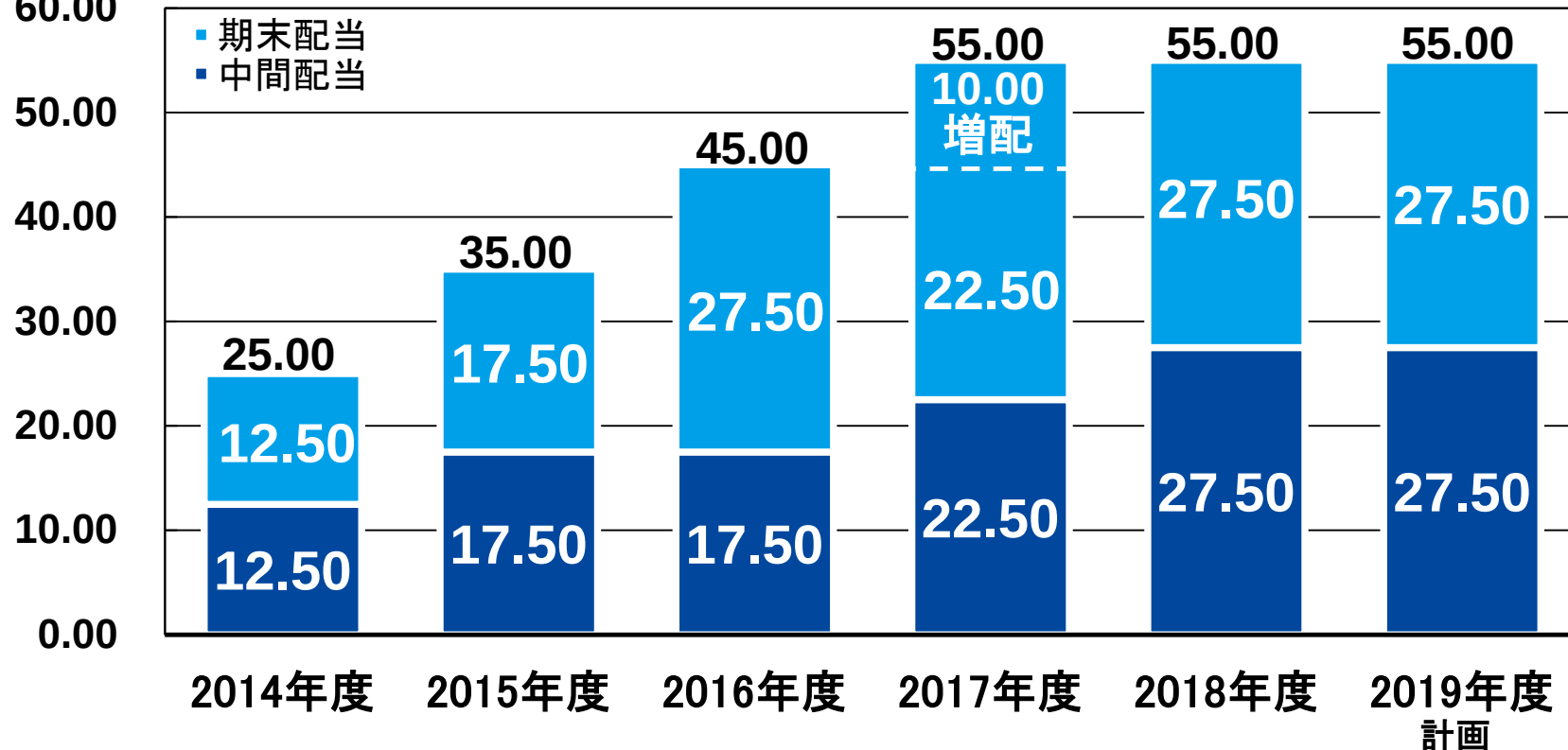


※ 設備投資は、ホットスタンプの導入等により、8億円の増加

※ 減価償却費は、16億円の増加

配当金推移

(円) 60.00



総還元性向

14.6%

16.1%

14.2%

16.5%

20.5%

75.0%

- 今年度は自己株式取得50億円を実施予定。これを受け、2019年度の総還元性向は約75%となる見込み
- また、2019年度予想EPSは208.7円。自己株式取得50億円考慮後の予想EPSは222.7円となる見込み



1. 技術開発

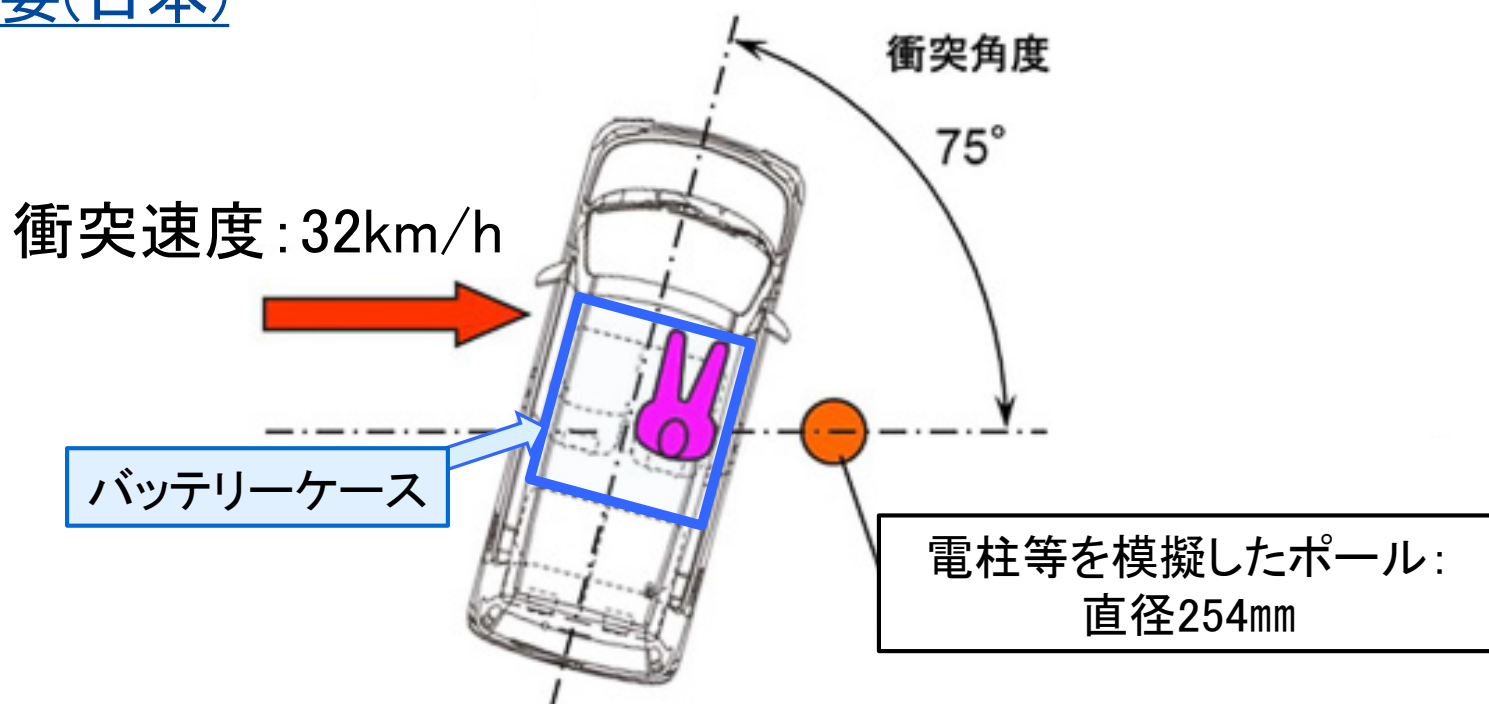


(1) 車体部品事業 技術開発の取り組み

- ・各国の安全要求が厳しくなり、ポール側突対応が必要となった。
- ・バッテリーケース強度向上により、衝突時のポール侵入低減を図る。

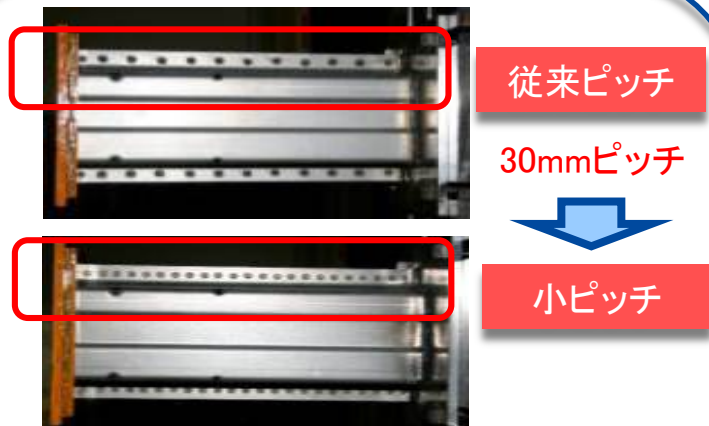
【各国でのポール側突試験】 日本:保安基準 北米:NCAP 欧州:Euro NCAP 他

試験概要(日本)



強度向上技術：小ピッチスポット溶接技術

一般的には、小ピッチ溶接では点当たりの溶接強度が確保できない
⇒ 小ピッチでも点当たりの溶接強度が維持できる技術を開発



同フランジ面積内の打点数を2倍にできる



打点数を増やせた為、
板厚アップせずに強度向上

同フランジ面積内の打点数が増やせ、
部品強度向上

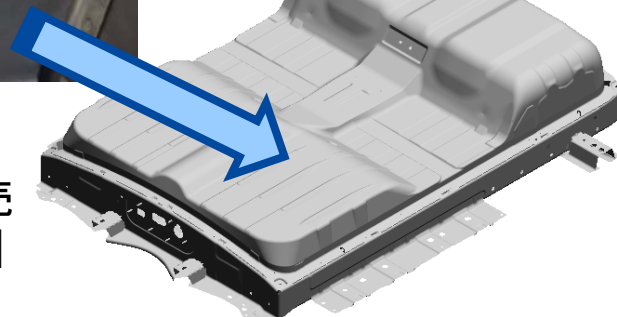


板厚アップ不要・レインフォース（補強材）不要



軽量化・コストダウンに貢献

大型バッテリーケースに量産採用



2019年1月発売
【日産Leaf e+】
より採用



ホットスタンプ技術開発(1)

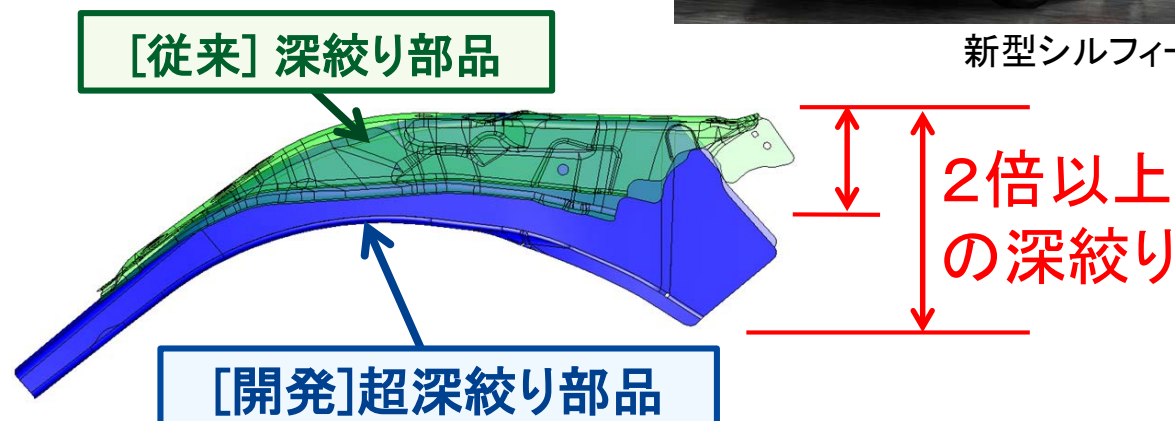
2019年4月に初公開された日産「新型シルフィー」で
メンバー類はじめ多数のホットスタンプ部品を受注。
高い技術を採用



新型シルフィー

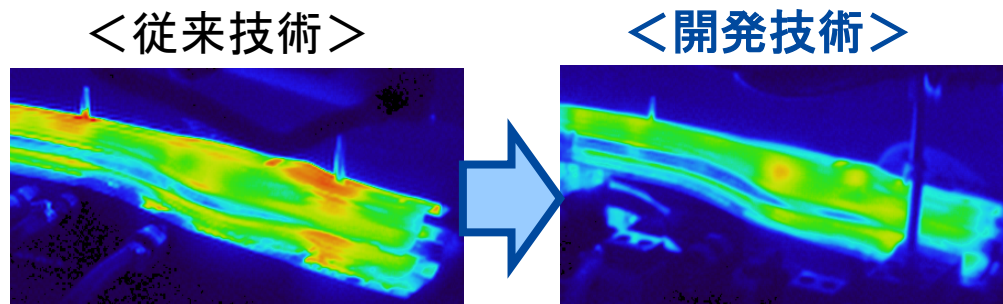
超深絞り技術

従来のホットスタンプ
深絞り部品を上回る、
「超深絞り部品」を開発

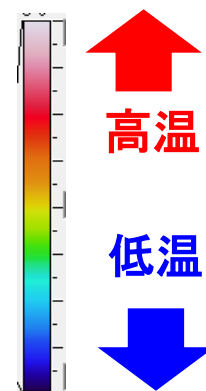


急速冷却技術

金型の冷却効率を上げる
工夫により、パネルの
冷却性を向上
⇒生産性が約2倍に



冷却性 約40%向上
(従来比)



コーティングによるめっき凝着の耐性向上

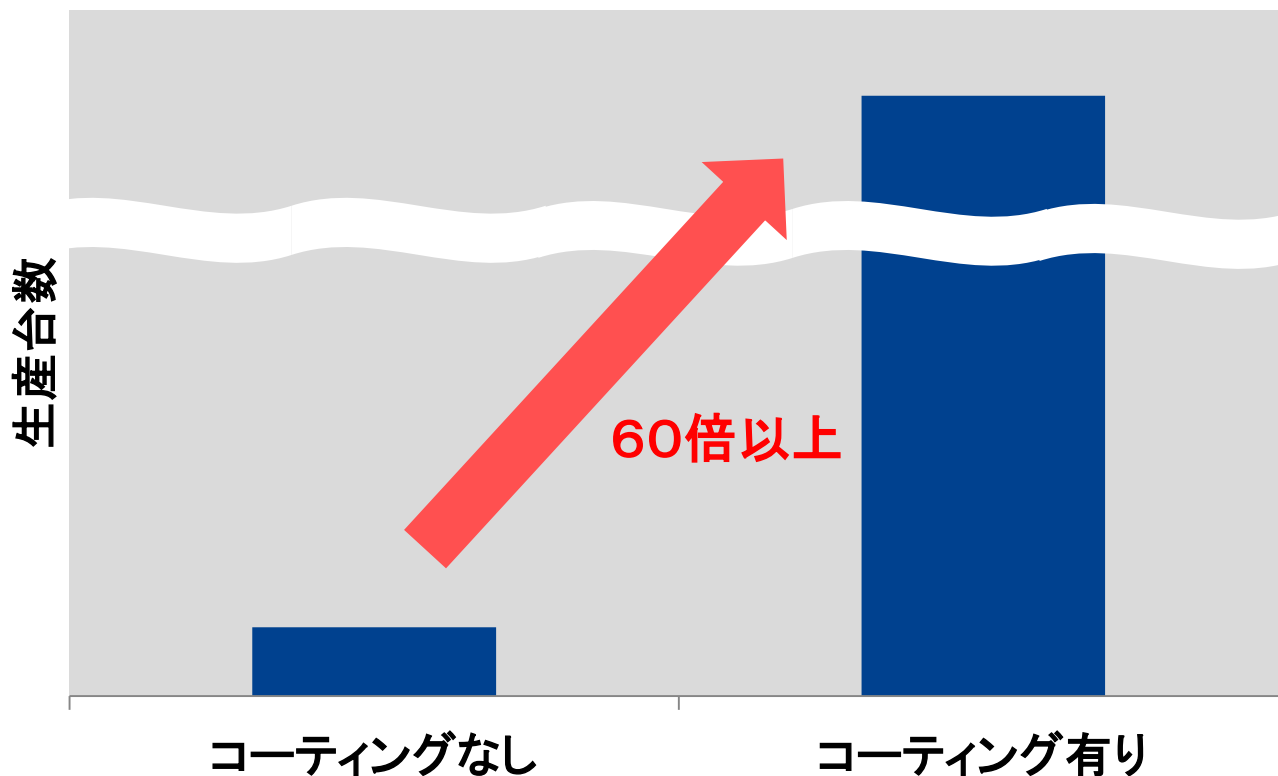
コーティングなし



コーティングあり



<メンテナンスフリーでの生産可能台数>



金型にコーティングを施すことで、金型へのめっき凝着強度が向上し、メンテナンスフリーで従来の60倍以上の台数が生産可能に

ホットスタンプ(導入計画)

新車受注にあわせて更に追加導入を決定

ユニプレスイギリス

■1ライン

■2020年度 稼働予定

+

ユニプレスイギリス

1ライン

ユニプレスアラバマ

■1ライン

■2020年度 稼働予定

ユニプレス九州

■1ライン

■2019年度 稼働予定

栃木工場(真岡)

■1ライン

■2020年度 稼働予定

栃木工場(小山)

2ライン

東風ユニプレス
ホットスタンプ(鄭州)

■1ライン

■2020年度 稼働予定

東風ユニプレス
ホットスタンプ(広州)

■1ライン

■2019年度 稼働予定

ユニプレスメキシコ

■1ライン

■2019年度 稼働予定

自動化・智能化モデルラインの構築(中国)

無人化工場を目指し、中国拠点をモデル工場として、
2018年度より各アイテムの自動化・智能化を推進中

2018年度実績アイテム

区分		No	活動アイテム	目的・狙い
自動化	プレス	1	コイル自動セット	クレーンマン工数削減
		2	ブランキング パイラー自動化	荷姿工数削減
		3	blank材AGV搬送	クレーンマン工数削減
		4	トランスファープレス自動荷姿	荷姿工数削減
	物流	5	プレス単品物流のAGV化	フォーク工数削減
	組立	6	組立ラインの自動化	直接員工数削減
		7	Assy品/単品自動入庫/配送	フォーク人員削減
智能化	プレス 組立 物流	8	生産情報システム	データ集計工数削減
		9	諸表作成の智能化	報告書作成工数削減
		10	オーダー生成の智能化	生産手配工数削減
		11	知能保全システム(予兆監視)	保全人員削減
		12	品質測定システム	精度保証、工数削減

中国拠点をモデル工場に
自動化・智能化アイテムの水平展開を推進(2019年度～)

九州独自の活動

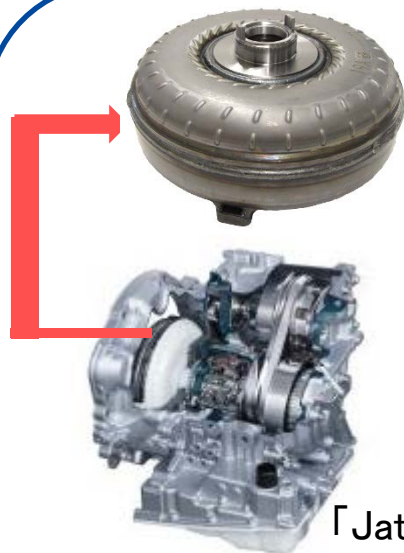
<国内展開例:ユニプレス九州>

区分		No	活動アイテム	目的・狙い
自動化	プレス	1	ブランキング パイラー自動化	荷姿工数削減
		2	ブランク材AGV搬送	クレーンマン工数削減
	物流	3	プレス単品物流のAGV化	フォーク工数削減
	組立	4	組立ラインの自動化	直接員工数削減
		5	Assy品/単品自動入庫/配送	フォーク人員削減
智能化	プレス 組立 物流	6	生産情報システム(自動実績収集)	データ集計工数削減
		7	配員管理システム	直接員配員ロス削減
		8	KPIデイリーモニター管理	管理工数削減
		9	オーダー生成の智能化	生産手配工数削減
		10	知能保全システム(予兆監視)	保全人員削減
		11	品質測定システム	精度保証、工数削減



(2) トランスミッション部品事業 技術開発の取り組み

軽自動車用トルクコンバータの開発



軽自動車用トルクコンバータ(自社開発品)を
2018年10月より生産開始

Jatco軽自動車専用の新型「Jatco CVT-S」に採用

「Jatco CVT-S」



新型デイズ



新型eKワゴン

日産「新型デイズ」、三菱「新型eKワゴン」等に搭載

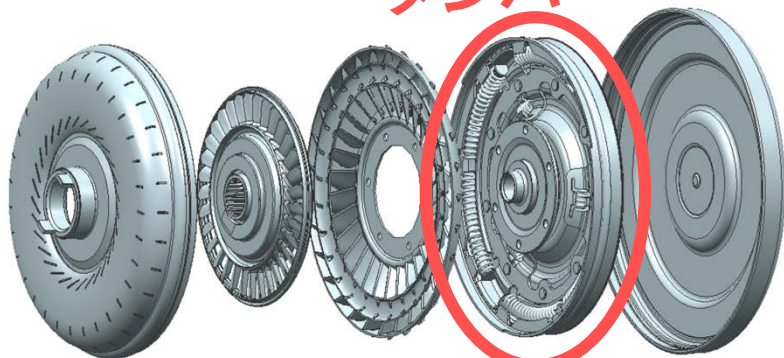
＜トルクコンバータ生産の状況＞

2008年	トルクコンバータ生産開始
2011年	自社開発ダンパー生産開始
2015年	自社開発トルクコンバータ生産開始
2018年	軽自動車向けトルクコンバータ(自社開発品)生産開始

ガス軟窒化鋼板ダンパープレート開発

ガス軟窒化鋼板ダンパープレートを日本製鉄と共同開発し、
軽自動車用トルクコンバータへの適用に成功

ダンパー



ドリブンプレート



ホールドプレート



イコライザープレート

【各ダンパープレートの主な機能】

- ・エンジントルク変動の吸収（振動低減）
- ・スプリングを保持し、なめらかな伸縮性を実現

⇒高強度・剛性と精度を求められる

＜熱処理方法の進化＞

浸炭窒化（熱歪：大）＋ 歪み取り工程



浸炭窒化処理（熱歪：小）



ガス軟窒化鋼板の採用（熱歪：極小）

＜効果＞

■生産性向上

熱処理時間の短縮及び温度の低減

■歩留まり向上

熱処理後の歪み低減により品質向上



(3) 樹脂事業 技術開発の取り組み

電動化の進展



車体の更なる軽量化

空力性能向上

＜樹脂製バッテリーケース(上蓋)の開発＞

【スチール製】



【樹脂製】



軽量化△70%

電動化の進展



車体の更なる軽量化

空力性能向上

EV車、HEV車では、航続距離を延ばすため、
空力性能の向上が求められる



アンダーカバー類の大型化や
採用拡大が見込まれる



**大型製品の低圧成形が可能な
当社にとってオポチュニティ**



当社が生産している
「日産リーフ」樹脂製アンダーカバー

- ・大型の樹脂製品を薄く、軽く、低コストで生産できる当社技術の優位性を活かした製品の開発による売上拡大を目指す



2. 拡販

2018年度新車立上げ実績と今後の見通し

	2018	2019	2020
日本			
米州			
欧州	—		
アジア (中国・タイ・ インド・ インドネシア)			
計	16	21	23

- ・ 2019年度はグローバルで21車種の新車立上げを計画

日産“新型デイズ”受注状況

2019年3月に発売された日産・三菱アライアンスの軽自動車の
車体骨格部品および樹脂部品を新規受注。
車体骨格部品については、メタルテックとの協業により生産・納入

【受注部品】



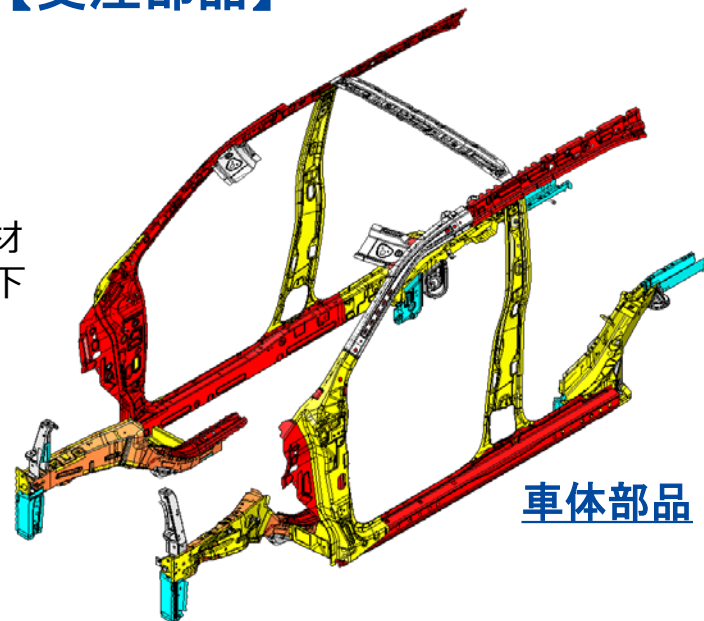
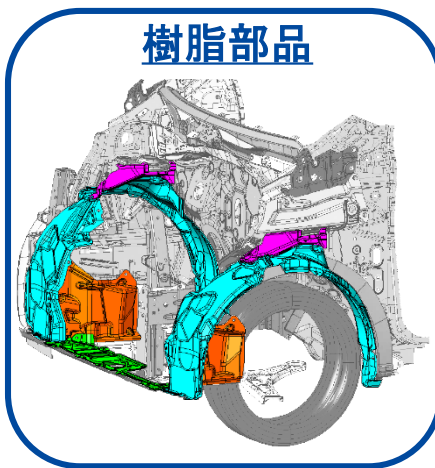
日産「新型デイズ」



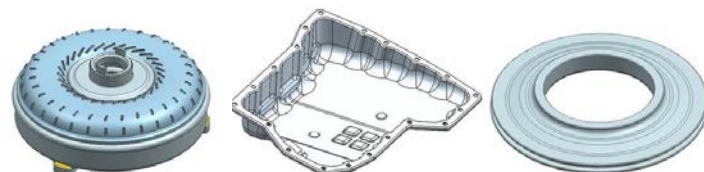
三菱「新型eKワゴン」

- 980MPa
- 780MPa
- 590MPa
- 440MPa
- 340～370材
- 270MPa以下

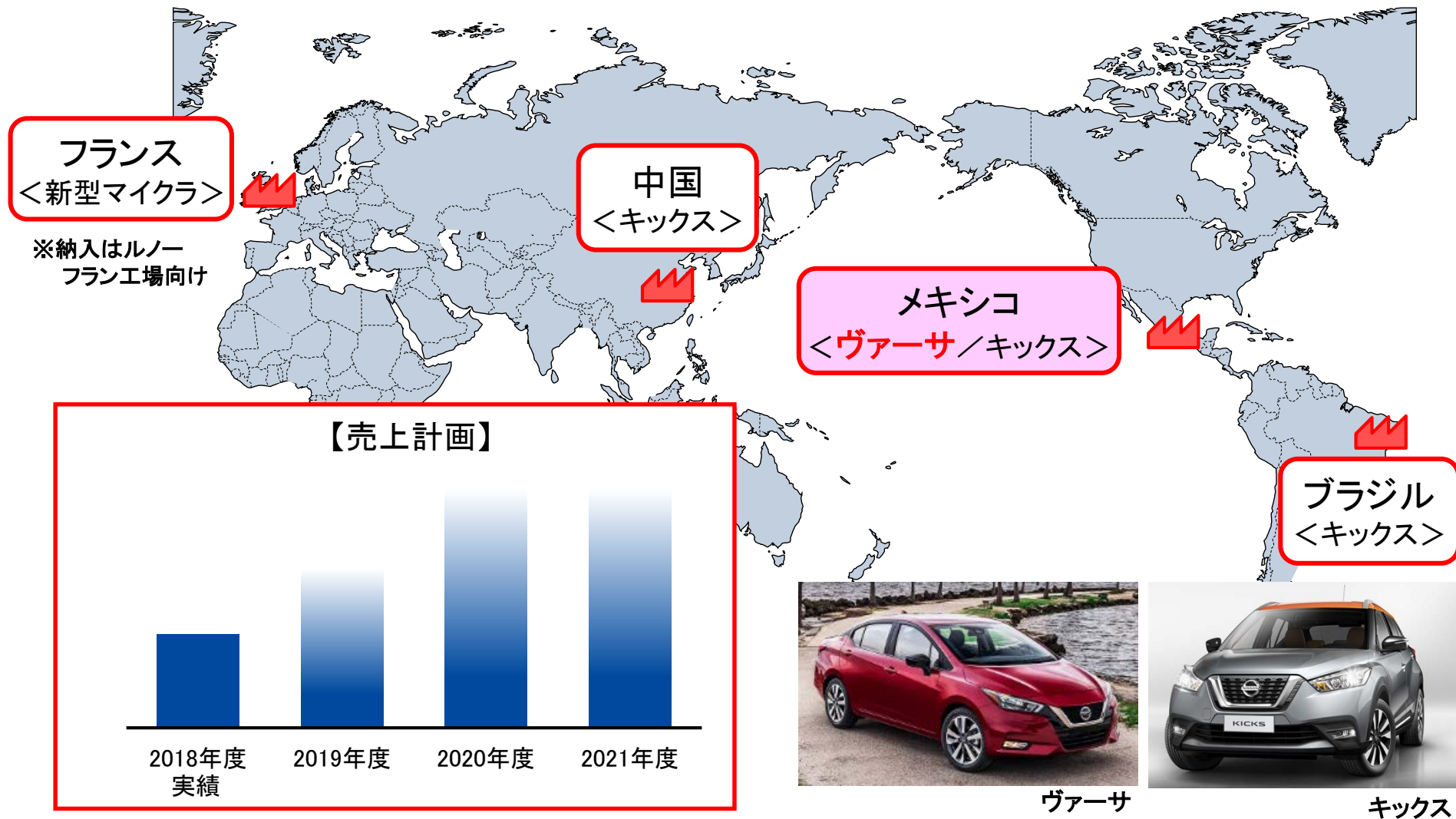
樹脂部品



車体部品

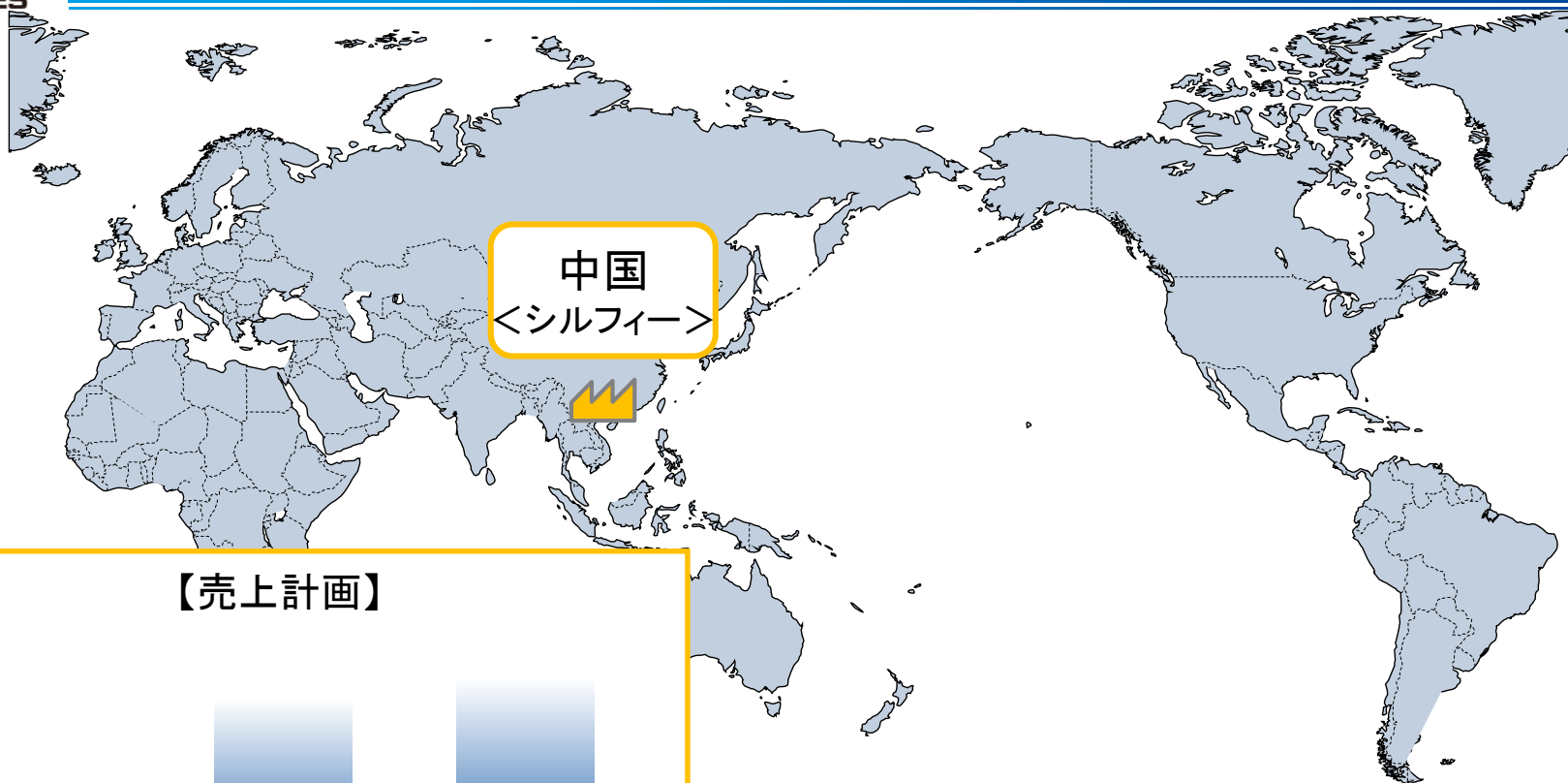


トランスミッション用部品

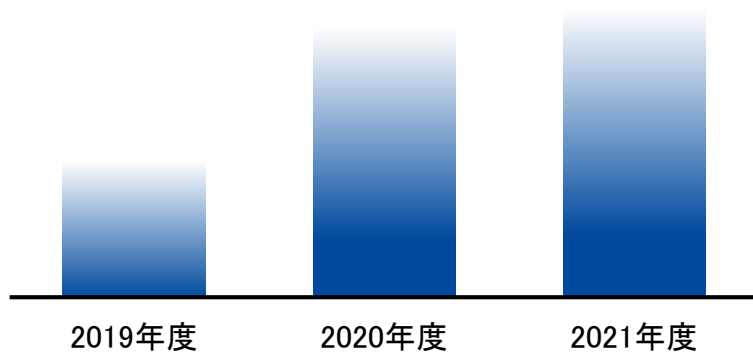


- メキシコで「ヴァーサ」を新規受注し、2019年5月から生産

日産「シルフィー」受注状況



【売上計画】



新型シルフィー

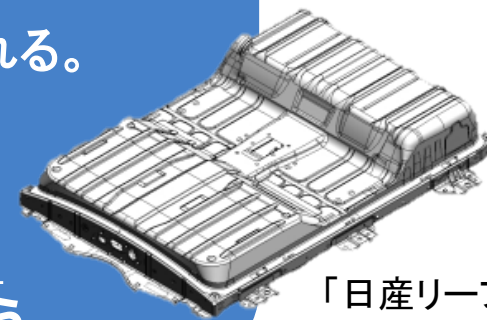
- ・ 中国で「シルフィー」を新規受注し、2019年5月から生産

バッテリーケースの売り上げ見通し

- ・日産は2022年度までに電動車（EV、P-HEV、e-POWER）の販売をグローバル全販売台数の30%を目指す。
- ・ルノー・日産・三菱アライアンスでも電動車の拡大が見込まれる。

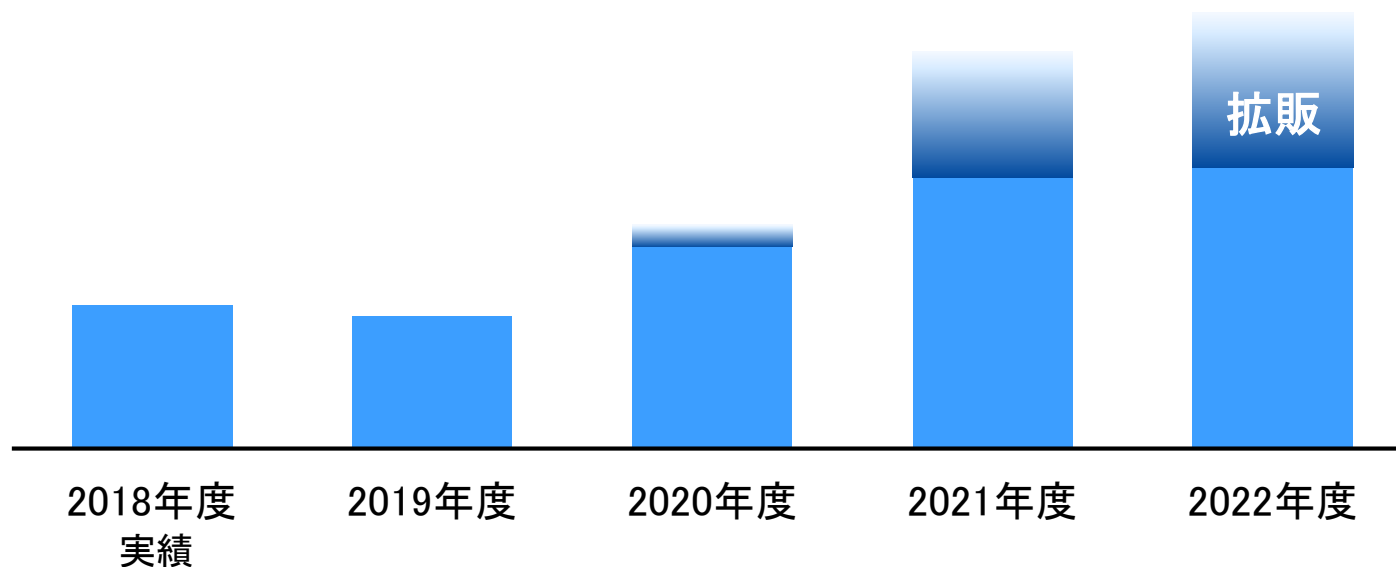


リーフのバッテリーケース独占生産の実績を活かし、
今後開発される電動車のバッテリーケース受注を狙う



「日産リーフ」
バッテリーケース

【バッテリーケース売上計画】

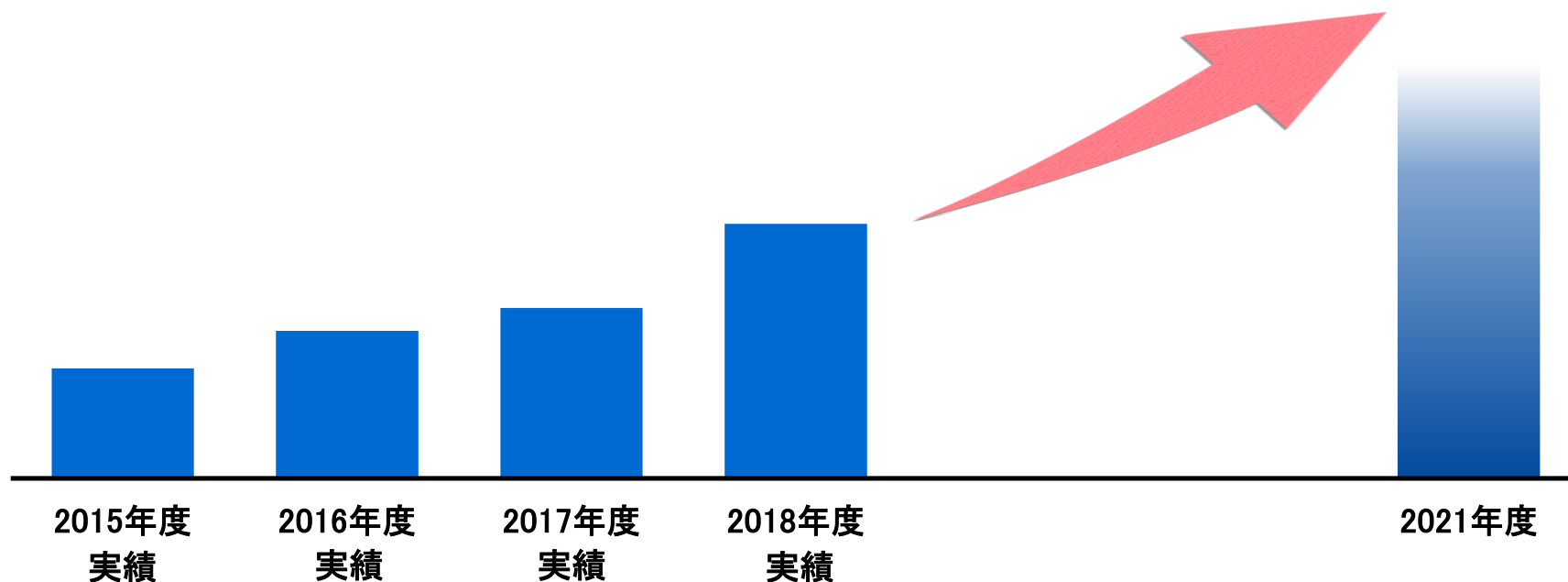




アイシン・エイ・ダブリュより、
サブアッセンブリー部品を初受注

シリンダーサブアッシー ピストンサブアッシー

< アイシン・エイ・ダブリュ向けグローバル売上 >



三菱自動車への拡販状況（樹脂事業）

- ・三菱自動車から、エクリプスクロスに続き新「デリカ D:5」向け樹脂部品を新規受注
- ・2019年2月生産開始

●新規受注車種

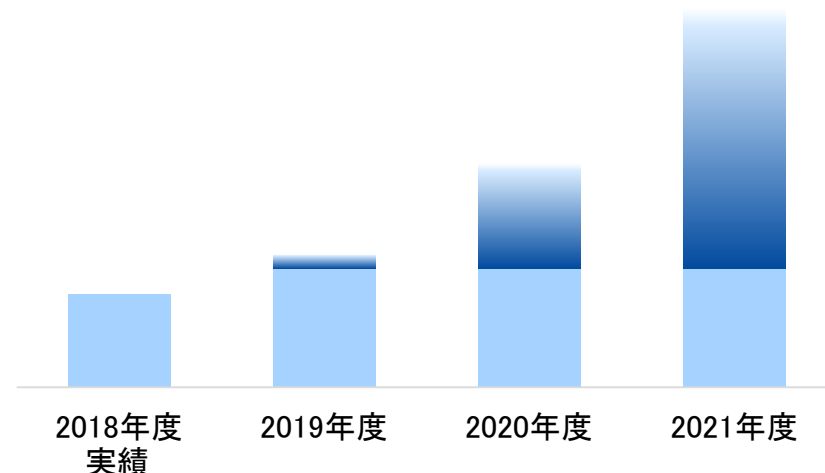


新「デリカ D:5」

●受注部位



＜樹脂事業 三菱向け売上計画＞



- ・独自のプレス成形技術による軽量化とコスト競争力により今後も拡販を目指す

- ・日野自動車から、「デュトロ」向け樹脂部品を新規受注
- ・ユニプレスとして日野自動車より初受注
- ・2019年5月生産開始



日野デュトロ

● 受注部位



- ・積極的な技術提案により、継続的な受注を目指す



『オートモーティブ ワールド2019』出展

クルマの先端技術分野において世界最大の展示会である
「オートモーティブ ワールド」に2年連続出展。
カーメーカーを中心とした来場者に当社技術を積極的にPR



【オートモーティブワールド2019】

会期:2019年1月16日～18日

会場:東京ビッグサイト

＜来場者からの反響例＞

- ・高成形性980Mpa材部品
- ・ホットスタンプ部品
- ・バッテリーケース(小ピッチ溶接)
- ・樹脂製バッテリーケース上蓋
- ・トランスミッション部品



3. 中期経営方針

■ マクロ経済

世界経済はグローバルの政治的リスクなど、先行き不透明感が増している
長期的には新興国需要を中心とした市場拡大を期待

- ・北 米 … 貿易摩擦の動向に注視しつつ、引き続き主力市場として期待
- ・欧 州 … 引き続きBrexit問題等を注視
- ・中 国 … 米中貿易摩擦の影響などにより、景気は減速傾向
- ・新興国 … 中長期的な成長期待は変わらず
- ・日 本 … 中長期的な漸減トレンドは変わらず

■ 自動車業界

グローバル化 ⇒ グローバルモデル・多極同時立上げモデル
技術革新 ⇒ 「電動化」「自動運転」「コネクテッド」、異業種との融合

**グローバル展開力、新技術・開発対応力が
サプライヤーの競争力のカギ**

【経営理念】

「プレスを究めて、プレスを越える」

■ 目指すべき企業の姿

1. 市場ニーズを先取りした技術開発型企业
2. 競争力No.1を維持するコスト開発型企业
3. 自動車産業構造変化に対応したグローバル戦略企業

■ 中期経営方針

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により収益力と競争力を強化する。

経営の重要な4つの課題と取り組み

1. グローバルな生産基盤の活用・強化

■ビジネスの拡大

- グローバル拡販（ルノー・三菱・ホンダ）
- 自動車産業変革への対応

■9カ国16拠点

- 生産基盤の更なる強化

2. 技術開発の推進

■新製品・新技術の開発

- 超ハイテン／ホットスタンプ／アルミ化対応技術
- 電動化対応技術
- 生産技術革新

■外部との共同研究拡充

- 高炉メーカー、自動車メーカー

3. 業界トップレベルの競争力

■コスト競争力強化

- UPS活動の更なる向上
- 15KPI ※Key Performance Indicator

■品質の向上

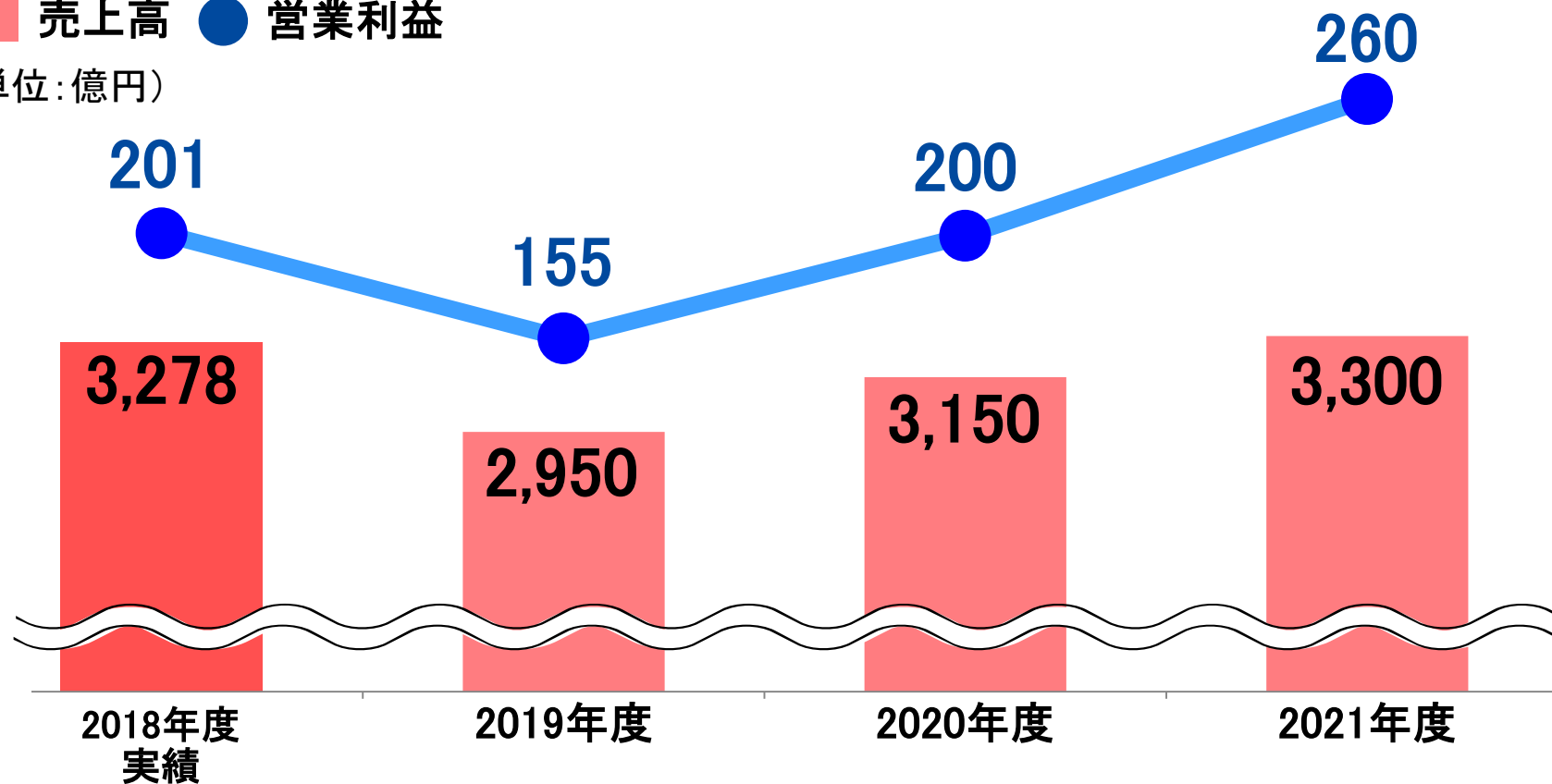
- 自動化の推進／AIの応用

4. SDGs課題を意識したCSRの取り組み

- 売上高 … 着実な成長
- 営業利益 … 売上高営業利益率8%

■ 売上高 ● 営業利益

(単位: 億円)

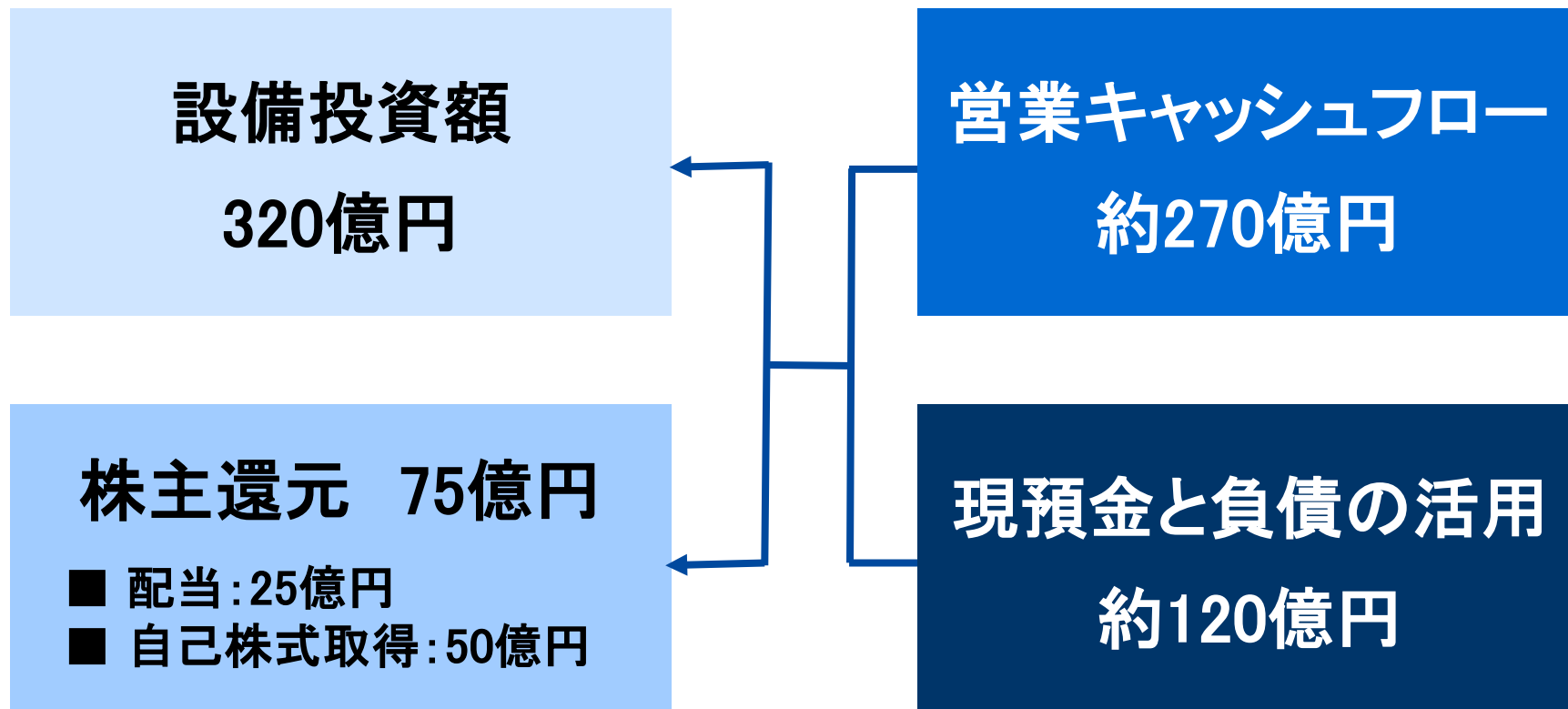


2019年5月14日に自己株式の取得実施を発表

自己株式の取得 実施内容

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 実施理由 | 株主還元 及び
資本効率の向上 |
| 2. 取得価額の総額 | 上限50億円 |
| 3. 取得株式の総数 | 上限320万株 |
| 4. 取得期間 | 2019年10月31日まで |

<2019年度>



自己株式取得は今後も状況をみながら継続検討する



UNIPRES

2019年4月より

「IR情報メール配信サービス」を開始いたしました。

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから

QRコードを
読み取って
登録



パソコンから

ユニプレス
WEBサイト
トップページの
バナーをクリック



一覧を見る > ピックアップ

» 株主優待

» 株価情報

» IR情報メール配信

» お問い合わせ

(円)

	2017年度 通期		2018年度 通期		2019年度 計画前提
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	110.71	106.27	111.07	111.01	110.00
英ポンド	145.37	152.02	146.80	140.35	145.00
ユーロ	127.19	134.95	130.00	126.88	124.00
ペソ	5.95	5.74	5.75	5.64	5.70
人民元	16.63	17.30	16.64	16.14	16.20
ルピー	1.72	1.63	1.59	1.61	1.50
バーツ	3.32	3.46	3.41	3.41	3.45
ルピア	0.0084	0.0083	0.0077	0.0076	0.0075

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場的大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など